

薬友会会長挨拶

薬友会会長 春 田 純 一（院23期）



皆さん、こんにちは！薬友会会長として4年目に入りました。今年の3月15日（土）に、薬学部2号館会議室で11時から理事会を、続いて沢井ホールで13時から総会を対面で開催しました。久方ぶり（5年半ぶり？）の対面での理事会・総会で、しかも私にとっては初めてのことで、戸惑いもありましたが、皆様のご協力を得て何とか乗り切りました。理事会では予定の時間を超えて忌憚ない意見交換ができ、新たな課題も上がってきました。又、総会では、令和7年度新役員体制の承認、薬学研究科の近況、6名の新任教授のスピーチ等の報告事項が行われ、滞りなく終了することができました。昨今の流れから、対面が良いのかテレワークが良いのかハイブリッドが良いのか悩むところですが、正直なところ対面が良いですね。

また、5月3日から始まった「いちょう祭」に併せて大阪大学同窓会連合会の幹事会が3日9時から豊中キャンパスで開催されました。予定時間をオーバーして活発な意見交換がなされ、どの学部も抱えている問題点は共通していました。新入生の会員数の減少と予算確保の問題です。若い人たちにとって同窓会の魅力とは何かを真剣に考える時が来ていると痛感しました。

今年も4月1日に新入生が元気に薬学部にやってきました。昨年同様薬友会主催の昼食会を学部新入生と開催しました。昼食会には小比賀幹事長をはじめ、各研究室からも先生方や今年は学生たちにも参加していただき和気あいあいとした和やかな会でした。やはり食は人を和やかにします。薬友会主催の食事会や飲み会をもっと出来たらなぁと思ってしまいました。そういえば各大学の「同窓会に新しい息吹を」のスローガンの下、いろんな方法で試行錯誤した中で「課題ごとの食事会・飲み会が重要」と明記されているのを思い出しました。

財政面では、今年も会費と皆様のご寄付と「薬友会だより」への広告掲載を3本柱として運営していくことになります。薬友会活動は、HP、薬友会、薬友会賞、卒後研修、大阪大学同窓会連合などの柱は充実させていくことは勿論のこと、それに加えて、新しい柱、できれば在校生を含む若い人たちも柱を立てていきたいです。

いずれにせよ、何をやるにも会員皆様のご理解とご協力が欠かせません。今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



研究科長ご挨拶

薬学研究科長・薬学部長 小比賀 聡

大阪大学薬友会の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。薬学研究科長・薬学部長を拝命しております小比賀でございます。薬学研究科・薬学部を代表し大学の近況をご報告させていただきます。

大阪大学薬学部では平成31年度に抜本的な教育制度改革を実施し、4年制学科(55名)と6年制学科(25名)の2学科体制から、研究型6年制学科(80名)への一本化を図り、薬剤師養成のための教育と研究力の涵養を両輪とする研究型全6年制教育を実践してきました。早いもので、この新しい薬学教育制度の立ち上げから6年が過ぎ、大阪大学Pharm.Dコース並びに薬学研究コースの学生たちは無事に卒業を迎えることができました。新制度の下で学生たちを社会に送り出すことができたことを教職員一同大変嬉しく思っております。この間、大阪大学薬友会の会員の皆様にも多くのご支援を賜りましたこと、改めて御礼申し上げます。また、先進研究コースの1期生から3期生の学生は、進級試験(QE)を経て大学院(博士課程)への飛び級入学を果たし、それぞれの研究室にて日々研究に打ち込んでいます。この研究型全6年制を成功に導くことは、我が国の薬学教育・研究の持続的発展にとって極めて重要です。今後も教職員一丸となり一層努力していく所存です。

さて、近年我が国の創薬力低下を危惧する声が多く聞かれるようになってきました。政府もその対応策となる施策を打ち出しており、文部科学省からも本年2月に「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究(薬学教育における創薬研究人材養成のための調査研究)委託事業」が公募されました。大阪大学薬学部では、有澤光弘教授、齊藤達哉教授、深田宗一郎教授が中心となり、今後の創薬人材養成のあり方について京都大学薬学部、近畿大学薬学部、立命館大学薬学部、和歌山県立医科大学薬学部とともに議論を重ね、この5大学で「次世代創薬人材育成アカデミー～基礎研究・

治験・製造・品質保証～」という提案を行いました。本提案は無事採択され、大阪大学薬学部はこの提案の主幹校として、創薬力強化に必要な課題を産官学共同で把握・分析し、革新的教育プログラムを構築するための調査研究に取り組むこととなりました。我が国の創薬力向上に向けて大学が取り組むべき人材育成とは何なのか、その解を見つめ直す良い機会だと捉え、これから3年間しっかりと調査研究にあたりたいと考えています。

研究面においても、着実に成果が上がっています。近藤昌夫教授、齊藤達哉教授、深田宗一郎教授らは、令和6年度より厚生労働省の医薬品等審査迅速化事業補助金革新的医療機器等国際標準獲得推進事業に採択され、「国際整合性のある体外診断用医薬品の特性を踏まえた臨床試験の実施基準の策定」という研究課題に取り組んでいます。この研究課題では、我が国で初めてとなる体外診断用医薬品の性能試験実施基準の策定を進めており、すでに薬事行政に直結する成果が得られつつあります。大阪大学薬学部からは近藤先生、齊藤先生、深田先生に加え、若手教員や学生を含む約10名が当事業に参加しており、厚生労働省、PMDA、産業界、臨床医等と活発な議論を重ねています。こうした取り組みを通じて、レギュラトリーサイエンス人材の育成にもつながるものと大いに期待しています。

一方、本年4月には、福澤 薫教授が中心となり取りまとめた研究課題「量子構造生命科学を基盤としたデジタル薬学教育研究拠点の形成」が、大阪大学のOUMasterプラン実現加速事業(活性化A)に採択されました。大阪大学薬学研究科には、全国の薬学研究科に類を見ない世界トップレベルの計算化学分野を有するという特徴があります。この大きな強みを活かし、内外の多くの研究機関と連携することで、量子構造生命科学を基盤とした薬学のデジタル化研究を推進し、創薬プロセスの高度化を実践していきます。将来的には、当研究科を薬学研究に必要なあらゆるデジタル技術を

集約した国内唯一のデジタル薬学拠点に成長させることを目指しています。

これらの研究科プロジェクト以外にも、AMED生命科学・創薬研究支援基盤事業（BINDS Phase II）の支援によるアカデミア創薬の実践や、大阪大学ワクチン開発拠点先端モダリティ・DDS研究センター（CAMaD）、大阪大学感染症総合教育研究拠点（CiDER）との連携による新興感染症に対する研究等、多くの研究プロジェクトが進められています。ここではご紹介できなかった個々の研究成果については、大阪大学薬学研究科HPを是非ご覧ください。

今年度は人事においても大きなニュースがございます。藤尾 慈教授が大阪大学統括理事・副学長に選任されました（任期は令和7年4月から令和9年3月）。これまで藤尾先生には、薬学部・薬学研究科における教育・研究活動並びに学部運営にご尽力いただきましたが、これからは活躍の場を大阪大学本部に移し、熊ノ郷 淳新総長とともに大阪大学の教育研究活動を牽引されることになります。大阪大学の一層の発展のために藤尾先生の益々のご活躍を祈念しております。

教授の人事としては、令和7年4月に澤間善成先生が、機能分子製造化学分野（製造）の教授に着任されました。澤間先生は、有機合成化学を基盤とした生物

活性化化合物の合成研究に加え、化合物への新たな重水素導入法の開発や、重水素化による化合物の機能性向上に基づいた新たな創薬研究領域の開拓に精力的に取り組んでおられます。澤間先生の研究は国際的にも高く評価されており、有機合成化学や創薬化学領域での活躍が期待されます。一方で、薬品製造化学分野（製造）の赤井周司教授、細胞生理学分野（微生物）の辻川和丈教授、薬剤学分野（薬剤）の中川晋作教授が、令和7年3月に定年を迎えられました。赤井先生、辻川先生、中川先生には、これまで長きにわたり本学の教育・研究並びに部局運営において多大なご尽力をいただきました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

今年度の薬学研究科／薬学部の執行部は、小比賀と副研究科長の堤 康史教授、評議員の福澤 薫教授、研究推進会議議長の水口裕之教授、および学務会議議長の深田宗一郎教授で担当いたします。大阪大学薬学研究科・薬学部の伝統を守りつつ、新たな薬学研究の道を切り拓くとともに研究型全6年制教育を成功に導くため、部局運営に全力で取り組んでまいります。皆様におかれましては、引き続きご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

赤井周司教授 定年退職記念事業；最終講義ならびにシンポジウム・祝賀会

薬品製造化学分野教授 赤井周司先生が、2025年3月31日をもって定年退職されました。赤井先生は1987年3月大阪大学薬学研究科にて薬学博士を取得後、翌4月から日本学術振興会特別研究員として大阪大学で勤務、1989年4月に大阪大学薬学部助手に着任されました。2005年4月に同准教授に昇任、同年6月に静岡県立大学薬学部に教授として赴任されました。2013年3月、大阪大学大学院薬学研究科に教授として戻られ、本学をはじめ我が国における学術研究と教育に多大な貢献をされました。

赤井教授の退職に際し、2025年3月12日（水）、薬学部1号館4階沢井ホールにて最終講義が開催され、数多くの教員・卒業生ならびに現役学生の方々にご出席を賜りました。冒頭に薬学研究科研究科長 小比賀聡先生からご挨拶をいただき、赤井先生の略歴をご紹介いただきました。続いて、赤井先生より「我が人生も塞翁が馬：有機化学と共に歩んだ47年間」と題する最終講義が行われました。赤井先生は、ご自身の研究生生活を振り返り、数々のエピソードを交えながら、分野を問わずわかりやすくお話されました。また、若手教員や現役学生にいくつかの激励の言葉を送られました。その後、場所を移して茶話会が開催され、思い出に浸りながら楽しい語らいが続きました。

また、2025年4月26日（土）、千里阪急ホテルにて定年退職記念シンポジウムが開催されました。まず、薬学研究科有機化学系分野

の教授 小比賀聡先生、荒井雅吉先生、有澤光弘先生、澤間善成先生によるそれぞれの研究紹介の後、赤井周司先生によるご講演を賜りました。赤井先生の学生時代から今日に至る長年の研究についてご紹介頂き、出席者は赤井先生の有機化学への熱い思いとこだわりがもたらした沢山の素晴らしい研究成果に大きな感銘を受けました。その後、同ホテルで祝賀会を開催しました。冒頭に、大阪大学大学院薬学研究科長 小比賀聡先生、大阪大学名誉教授 北泰行先生、東北大学薬学研究科教授・日本薬学会前会頭 岩瀬好治先生よりご挨拶頂きました。本研究科教員、大阪大学と静岡県立大学の多くの卒業生、近隣の大学教員など計131名の方にご臨席頂きました。赤井先生は各テーブルを回られ、昔話に花が咲き、3時間があっという間に過ぎました。

最後になりますが、赤井周司先生の今後のご健勝を祈念し、退職記念事業の報告とさせていただきます。

（文責：澤間善成）



辻川 和丈教授 最終講義・定年退職をお祝いする会の開催

薬学研究科 1 号館 4 階沢井ホールにおいて行われた「アカデミア創薬研究への挑戦を創薬研究拠点構築へと繋ぐ」と題した最終講義では、名誉教授の先生、学内の教職員の方々とともに、多くの大学院生の聴講が印象的でした。辻川先生の最終講義は、大阪大学薬学研究科教授（現 統括理事・副学長）藤尾 慈先生のご挨拶に続いて開催されました。講義では、まず大阪大学薬学研究科での大学院生活を出発点とされ、基礎研究に取り組まれた初期のご経験についてご紹介いただきました。その後、製薬企業における創薬研究に従事され、実用化を志向した研究の現場で得られた知見と、創薬の社会的意義についてお話しされました。さらに、米国ハーバード大学ダナ・ファーマー癌研究所への留学時には、国際的な研究環境の中で最先端のがん研究に携わられたご経験を通じ、視野を広げられたことをご共有いただきました。ご帰国後は、大阪大学薬学研究科に准教授として着任され、前立腺がんの特徴的に高発現する遺伝子「Prostate Cancer Antigen-1: PCA-1」を世界に先駆けクローニングされました。その発見とその後のご研究は、エピトランスクリプトミクスという新たな学問領域の創生に繋がったことを示されました。さらに要時生成型亜塩素酸イオン水溶液の研究に基づき、大阪大学発ベンチャー

お忙しい中、微生同窓会における定年退職をお祝する会にご賛同、ご臨席いただきました皆様に、この場をお借りいたしまして心よりお礼申し上げます。



中川晋作教授 最終講義

(文責：樋野展正)



新任教授紹介

大阪大学大学院薬学研究科
機能分子製造化学分野

澤間 善成 (49期)



2025年4月1日付で、機能分子製造化学分野の教授を拝命いたしました。この場をお借りしまして、薬友会の皆様にご挨拶申し上げます。

私は、1997年4月に大阪大学薬学部製薬化学科（49期）に入学し、その後2000年4月に北 泰行教授が主宰されていた分子合成化学分野に入室しました。そして、北 泰行教授と藤岡弘道助教授の御指導のもと、2006年3月同大学大学院薬学研究科博士後期課程を修了し、学位を取得させて頂きました。その後、独国ドルトムント工科大学（Norbert Krause教授）や立命館大学グローバルイノベーション機構（北 泰行教授）等で博士研究員の経験を経て、2010年2月岐阜薬科大学（佐治木弘尚教授）の助教として着任致しました。同大学で講師・准教授と昇任後、2021年4月に赤井周司教授が主催されていた薬品製造化学分野の准教授として着任しました。各研究室で自由な研究の場を提供頂き、独自の研究を展開することができました。また、優秀かつ何事にも積極的な学生と研究する機会に恵まれました。これまで多くの方々に支えて頂き自分自身が大きく成長できたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

私の専門は有機合成化学です。学生時代より、生物活性を有する有機天然物の合成研究と構造活性相関に取り組んでまいりました。また、その過程で見つけた新しい現象を、新規反応の開発へと応用してきました。さらに、分子から水素を抽出する反応や、ステンレスボールの衝突エネルギーを利用したメカノケミカル反応といった従来の薬学の枠にとらわれない手法を積極的に取り入れることで、有機合成化学の領域拡大に挑戦をしております。これらの研究を通して、分子構造の多様化を実現する高度な有機合成化学の技術を深化させてきました。そして現在は、重水素を分子に組み込むことで可能になる機能化と高度化を融合させた新たな学問領域「重水素学・重水素創薬」の開拓に取り組んでおります。2017年に重水素（D）を分子に組み込んだ医薬品（重医薬品）が世界で初めて上市されました。速度論的同位体効果によりC-D結合はC-H結合より安定であることが知られています。そのため、医薬品の酸化的代謝を受けやすいC-H結合を、より安定なC-D結合に置換することで、医薬品としての性能が向上します。それ以外にも、重水素をタグとした分子イメージングなどが世界中で非常に注目されています。しかし、合成が非常に困難であることが問題となっております。我々は世界を先導する分子への直接的重水素導入法を保有しており、その技術を更に磨きあげて次世代の創薬領域の発展に邁進してまいります。研究室を主宰するにあたり、後進の育成ならびに薬学研究科の発展に貢献できるように尽力する所存でございます。今後も薬友会の皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

総会開催報告

大阪大学薬友会では、これまで4年に一度、総会を開催してまいりましたが、コロナ禍の影響により、2019年10月を最後に対面での総会は開催されておりませんでした。このたび、感染状況も落ち着きを見せたことから、去る2025年3月15日（土）、大阪大学薬学部・薬学研究科の沢井ホールにて、約5年半ぶりとなる対面での総会を開催いたしました。当日は48名の皆様にご参加いただきました。総会では、春田純一会長の開会のご挨拶に続き、2025年度の理事・監事の体制が紹介され、出席者の皆様よりご承認をいただきました。その後、小比賀 聡幹事長より「大阪大学薬学研究科・薬学部の現状と今後の取り組みについて」と題した近況報告が行われ、続いて前回の総会以降に教授に就任された6名の先生のご紹介とご挨拶がありました。次いで薬友会の活動報告が行われ、令和6年度（2024年度）の大阪大学沢井記念薬友会賞受賞者（8名）についても紹介されました。最後に、池淵佐知子副会長による閉会の辞をもって、すべてのプログラムを無事に終了いたしました。

総会の詳細につきましては、大阪大学薬友会ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。ご参加いただいた皆様、ならびに開催にご尽力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

（庶務担当幹事：荒井 雅吉）



薬友会主催2025年大阪大学薬学部・新入生歓迎会開催

大阪大学薬学部では、大阪大学薬友会の主催により、4月1日に新入生歓迎会を開催しました。

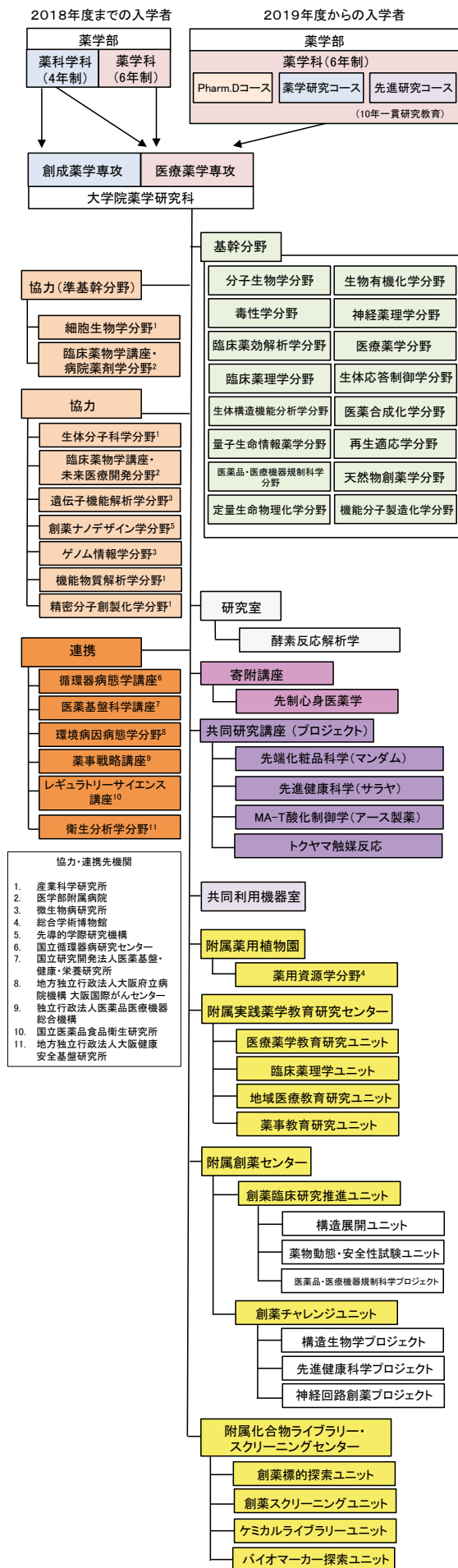
今年度は、新入生をはじめ、春田純一会長、小比賀 聡幹事長、クラス担任の先生方に加え、各研究室に所属する学生の皆さんにもご参加いただき、お弁当とお菓子を囲んでのランチパーティ形式となりました。

歓迎会では、春田純一会長による新入生へのご祝辞、小比賀 聡幹事長による（お茶での）乾杯ののち、堤 康央先生（毒性学分野）の名司会により、クラス担任の先生方による自己紹介なども行われ、終始和やかで楽しい雰囲気の中で開催されました。

最後に、今年度の新入生歓迎会の準備をご担当いただいた堤 康央先生をはじめ、毒性学分野の皆様に心より感謝申し上げます。

（庶務担当幹事：荒井 雅吉）





広告協賛のお願い

「大阪大学薬友会だより 第26号」【発行2023年 8月31日(年1回8月に発行)】から、広告掲載(財政基盤整備の一環)を予定しています。より良い薬友会のためには是非とも皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。広告掲載は下記の要領でお願いします。

記

●発行部数

6,000部

●広告サイズと掲載協力金

・A4判 1 ページ (250×172)	80,000円
・A4判1/2ページ (122×172)	40,000円
・名刺サイズ (46.8×84)	8,000円

●広告原稿

原則頂いた原稿をそのまま掲載いたしますが、修正・変更等は可能です。詳細は下記までお問合せ下さい。

●お申込み方法

メール又はFAXで「広告協賛」とお書き頂いて、1) 広告主の社名(氏名)、2) 住所、3) 電話(FAX)、4) メールアドレスを記載してお送り下さい。お申込み頂いた方には、後日、広告掲載要領を送付させていただきます。

●次号広告のご案内

2025年11月30日

●お申込み・お問合せ先

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
 (株)サラト内 大阪大学 薬友会係
 FAX 079-284-0904
 E-mail hyyk-info@salat.ac.jp

2024年10月16日 16期同窓会開催

去る10月16日大阪梅田ホテルグランヴィアで薬学部16期生の同窓会が開かれました。参加者は18名で八十の大台に近い方々でまだまだ元気な姿を拝見することができました。

近況として皆さんの趣味、軽い運動などの話を伺いながら若かりし昔に戻ることができました。この会はいつまで続くでしょうか。来年を一区切りの集まりとして最後にしようかとの話もありますが、私はZOOMによる同窓会も楽しいのではないのでしょうか？ と提案します。

皆さんの今後のご健勝を祈って……。 (16期 原田 昌弘)



2025年4月24日 17期同窓会開催

4月24日、大阪大学薬学部17期同窓会が2年ぶりにホテルグランヴィア大阪20Fクリスタルルームで開催された。今、夢洲では「EXPO2025大阪・関西万博」が開催中だが、17期は前回の大阪万博の前年1969年に卒業している。実に今年は学部卒業後56年目である。

今回の参加者は16名(男性8名、女性8名、うち遠方からの参加者6名)であった。2年前の参加者は21名であったので、前回に比べて5名減少した。高齢化、病気などが原因。

開会、乾杯のあと、食事を楽しみながら歓談した。三浦貞彦さんから頂いたメッセージを披露し、その後、皆さんから近況報告があった。北澤恵子さんが用意された、これまでの同窓会の集合写真や、17期有志の万葉の旅などをまとめたアルバムが回覧され、懐かしく当時を偲んだ。

最後に、次回幹事を馬場明道さんと大谷多美子さんにお願いし、馬場さんから次回同窓会を2年後に開くこと、次回を最後の同窓会にしたいことが提案された。しかし参加者から1年後に開いてほしいとの要望もあり、次回は来年開催ということになった。集合写真を撮った後、元気にまた再会できることを願い散会した。

(幹事：脇舩光廣、岡悠子)



2024年11月23日 22期同窓会開催

令和6年(2024)11月23日(土)大阪梅田ヒルトンプラザイースト7F「大阪聘珍楼」にて、卒業後50年を記念して5年ぶりに2学科合同の同窓会を開催しました。80名の入学者のうち31名から出席の連絡があったものの、直前の体調不良などでキャンセルが出て、実際の参加者は29名になりました。東は東京を含む関東地方、西は広島や四国からの参加者は、新幹線のトラブルに巻き込まれて遅れはしたものの、久しぶりの再会を喜び合いました。最近5年ごとに開催している同窓会の参加者数が2014年(37名)、2019年(34名)、2024年(29名)と年々減少しています。以前の欠席理由としては親族の介護のためが多かったのですが、今回は本人の体調不良(脊柱管狭窄症などによる歩行困難)を理由とした欠席が多く、このあたりが気に掛かります。約2時間半、食事とお酒を楽しみながらの歓談で和やかに過ごしたのち、次回幹事3名を選出し、全体写真を撮影、次回の同窓会で再会できることを楽しみに散会しました。(幹事：松原、原、四橋)



2025年 6月27日 23期同窓会開催

前日が豪雨で心配しましたが、当日はちょうど近畿の梅雨明け宣言があった日で、晴天となりました。総勢16名（出席予定は18名でしたが、直前で体調不良のため2名が欠席）が石橋阪大前に集まりました。

同期会の出席者は、大阪、奈良が中心でしたが、中には名古屋や愛媛からも来られました。

学生時代とは大きく異なってしまった駅前を観ながら、綺麗な庭園のある「がんこ池田石橋苑」へ到着。まずは乾杯、そして昼食を楽しみながら、歓談。

その後に、一人ずつ近況報告をしました。多くは、そろそろ仕事も終え、毎日の図書館通い、自己鍛錬の日々とか、子供の独立を経て趣味に没頭する人も多かったです。中には、病気を発症された方もおられましたが、薬剤が奏功してお元気に参加いただけました。また、仕事を続けている方もおられました。

締めくくりに、会場での撮影に続き、料亭の日本庭園でも撮影会を実施。

新しい幹事も決まり、出来るだけ早く次回を開催することで全員合意。次の開催を期して、散会しました。

その後は、希望する人たちで、大阪大学総合科学博物館の見学（あらためてマチカネヤマワニとの再会）の後、阪大教養の当時とは全く変容した待兼山キャンパスを見学。

イ号館はどこ？ロ号館は？大講堂では学生運動による占拠があったなあ、このプールでは25mを泳げないと卒業できず大変だった、といった当時の懐かしい記憶を次々と呼び覚ましなが、ひと時を懐かしむことができました。

皆様、お疲れ様でした。また多くの皆さんと元気に再会できることを楽しみにしています。（川口 誠）



2024年 3月22日 微生同窓会開催

微生物薬品化学教室（青沼 繁先生、三村 務先生）と細胞生理学分野（山元 弘先生、辻川 和丈先生）の同窓生約150名が参加していただき、千里阪急ホテルで微生同窓会が開催されました。まず眞弓 忠範先生（12期）より開会のお言葉があり、引き続き微生同窓会会長 山元 弘先生（18期）からご挨拶いただきました。その後、微生同窓会副会長 辻坊 裕先生（院24期）に乾杯のご発声を頂戴し、華やかに宴を始めることができました。会の半ばでは、大阪大学微生物病研究所教授 伊川 正人先

生（40期）、岐阜薬科大学教授 中西 剛先生（41期）、大阪大学薬学研究科教授 深田 宗一郎先生（46期）、鳥取大学教授 常世田 好司先生（院48期）、理化学研究所チームディレクター 宮内 浩典先生（院48期）からご研究の近況報告をいただきました。会の最後には、微生同窓会副会長 寺田 多一郎様（院28期）からご挨拶、その後、川端 常樹様（8期）に結びのお言葉をいただき、出席者全員の記念写真を撮って微生同窓会は盛大のうちに閉会となりました。（微生同窓会役員）



近況報告

卒業生の方々の近況をご紹介します。



森本和滋

院18期（生化）（日本薬史学会・監事）

2025年4月19日東大薬学部講堂で「医療系学生のための倫理教材の開発25年の歩み～使命感と責任感の醸成～」のタイトルで総会公開講演をした。現在まで6大学と法務省2機関で1年・2年生に「使命感と責任感の醸成」の講義、2021年からは、長崎大学国際保健医療福祉学研究分野・客員教授として、海外からの大学院生に“Building a Sense of Mission and Responsibility”のタイトルで双方向英語講義、課題レポートで「20年後の夢」も書いてもらっ

ている。2024年9月6日第46回国際薬史学会（ISHP）がベオグラードで口頭発表した。総会で年会長からISHP論文誌に投稿を勧められ投稿、査読を経て11月初めaccept。下記の論文お読みください。母校でも講義出来たらと密かに願っている。

1) Kazushige Morimoto. Learning from pharmaceutical disasters: The development of ethics and pharmaceutical history educational materials in Japan, 1999-2024. *Pharmaceutical Historian* 2025; 55 (1): 1-7



小島直人

47期（機能素子化学（製造））（長崎国際大学薬学部 教授）

私は、田中徹明先生、前崎直容先生のご指導のもと、2004年に博士後期課程を修了後、（公財）相模中央化学研究所にて平井賢次所長の研究グループに所属し、新規含フッ素農薬の創製研究に従事いたしました。その後、2005年に出身研究室へ助手として戻る機会を頂き、2012年からは京都薬科大学・山下正行先生の研究室に加わりました。この間18年にわたり、有機

合成化学を基盤とする新規抗がん剤の創製研究に取り組んでまいりました。2023年4月には、長崎国際大学薬学部・薬学教育支援センターの教授として、住み慣れた関西から九州へと異動いたしました。仕事内容も研究中心から教育中心へと大きく変わりましたが、一人でも多くの優秀な薬剤師を育成すべく、日々奔走しております。薬友会の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



高山和雄

58期（分子生物分野）（東京科学大学総合研究院難治疾患研究所）

私は、水口裕之先生のご指導のもと、2015年に博士後期課程を修了しました。これまで長らく関西に居住しておりましたが、2025年2月より東京での生活を始めました。今日は満員の丸ノ内線に揺られながら、携帯電話にこの300文字原稿を打ち込んでいます。2月に着任した東京科学大学では、研究室を「人体模倣シ

ステム学分野」と名付け、感染症をはじめとする疾患に貢献するヒトモデルの構築やその創薬研究に取り組んでおります。NGSやAIに代表されるように、生命科学の研究は目覚ましいスピードで進化を続けています。私自身、フリック入力に習得できておりませんが、仕事面では研究の最前線に残されぬよう、日々努力を重ねてまいります。



平井敏郎

58期（毒性学分野）（大阪大学先導的学際研究機構）

私は2015年に堤康央先生のご指導のもと博士号を取得しました。その後、米ピッツバーグ大学のKaplan教授の元で研鑽を積み、2020年の夏にコロナ真っ只中で帰国して、帰国者隔離が解けた翌日から大阪大学微生物病研究所にある吉岡靖雄先生のラボで、ワクチン研究に励んでおります。留学中に愛してやまなかったT細胞

が、ワクチン業界では抗体（B細胞）に大きく人気で劣る現実にしばらく適応できませんでしたが、最近ではもっぱら抗体と仲良く頑張っています。妻に対しては一筋です。早く世界のファンに私の新作論文を届けられるよう、釣りは生きていく必要最低限にとどめながら研究に邁進しています。



水野華奈子

63期（天然物化学分野（旧生薬））（中野製薬株式会社）

私は小林資正先生のご指導のもと、2017年3月に博士前期課程を修了いたしました。現在は中野製薬株式会社に入社し、頭髪用化粧品処方開発に携わっております。使用者の感覚に訴える化粧品の開発においては、その性能を数値で評価できないことが多くあります。製剤の安定性向上と性能の追求、さらにそれを伝え

る手段の考案を並行することは難しく、学び、考え、試行錯誤する日々を過ごしております。そんな中で、学生時代に培ったものづくりに対する考え方はどんな仕事においてもそれらの礎となっています。薬学とは異なる分野に進みましたが、これからも人々を心身ともに健康にする助けとなるような商品を世に送り出せるよう精進してまいります。



森田健太

院63期（医薬合成化学分野）（旭化成株式会社 化学・プロセス研究所）

私は2020年に藤岡先生・有澤先生のご指導のもと、医薬合成化学分野において博士号を取得し、旭化成株式会社に入社しました。入社後は触媒開発に従事し、現在は医療・電材用途向けの低分子化合物のプロセス開発に従事しています。プロセス開発の醍醐味は、設備費や比例費に優れた独自のアイデアを考え、提案し

実証することにあります。提案したアイデアが既報を上回り、プロセスに採用された時の喜びは格別です。

プライベートでは、昨年1月に第1子、今年の6月に第2子が生まれました。公私ともに一段と忙しくなりそうですが、今後も仕事と子育てを楽しみながら、世界の人々の「いのち」と「くらし」に貢献できるよう、精進してまいります。



羽 淵 貴 紀

65期（生物有機化学分野）（株式会社日本触媒）

私は生物有機化学分野で小比賀聡先生のご指導を受け、2019年に博士前期課程を修了しました。その後、株式会社日本触媒に入社し、大学院での研究領域と同じく、核酸医薬品原薬の製造・プロセス開発に従事しています。さらに最近では社会人博士として研究を続け、2025年3月に東京理科大学の和田猛教授のもとと

士後期課程も修了し、一研究員として忙しくとも充実した日々を送っております。小比賀研究室で培った研究技術や知識、論理的思考力は、日々の業務や博士後期課程の取得過程で大いに役立ちました。今後本研究室での学びを糧に、一つでも多くの核酸医薬品の創出に貢献できるよう、より一層研鑽を重ねてまいります。



新 谷 勇 介

65期（神経薬理学分野）（神戸大学）

私は2023年3月、神経薬理学分野において橋本均教授のご指導の下、博士課程を修了しました。現在は、神戸大学大学院医学研究科内匠研究室で特命助教として、精神疾患の基礎研究に従事しております。内匠研究室では、バーチャルリアリティを用いた行動解析や大脳皮質のライブイメージング解析など、新しい生理

学的・情報学的手法を学び、実践する充実した日々を過ごしています。このような最先端の技術に挑戦できるのも、橋本先生をはじめ、多くの先生方に研究の基礎をご指導いただいたおかげです。これからも、大阪大学薬学部での学びを礎に、新しい精神疾患治療の可能性を拓けるよう、研究に邁進いたします。



三 宅 芳 明

65期（臨床薬効解析学分野）（住友ファーマ株式会社）

私は藤尾慈先生、尾花理徳先生のご指導のもと、2022年3月に博士後期課程を修了しました。修了後は住友ファーマ株式会社に入社し、現在は、住友化学グループに新たに設立された株式会社RACTHERAの事業推進部に出向し、再生・細胞医薬の研究開発を推進しています。再生医療等製品は既存医薬品とは大きく異なる特徴を有し、実装を目指すうえでは、大量培養、品質管理、流通、

病院への手術手技移管、免疫抑制、等々、対応すべきことが山積みです。様々な部門のメンバーが一丸となり議論を重ねながら、舗装されていない道を一步步歩んでいるこの頃ですが、研究室生活で学んだ論理的思考と、臨床を大切にすることは今の業務にも強く活かしています。今後も、人々の健康に貢献すべく、日々の業務に全力を尽くす所存です。



河 合 惇 志

院66期（創薬ナノデザイン学）（中外製薬株式会社）

私は創薬ナノデザイン学分野・吉岡靖雄先生のご指導の下、2023年に博士後期課程を修了し中外製薬株式会社に入社いたしました。在学中は主に経鼻ワクチンの研究に従事していましたが、現在は抗体を用いた異分野での創薬研究に取り組んでいます。大学での研究とは異なる領域ではありますが、研究室で培った知識

や技術が活きる場面が多いことを日々実感しています。医療技術が進歩した現在においても治療薬が存在しない疾患は未だ数多く存在します。新薬の開発は容易なものではありませんが、苦しんでいる患者さんを救いたいという熱意、そしてサイエンスへの探求心を忘れず今後も精進してまいります。



深 田 耕 司

67期（臨床薬理学分野）（大阪大学医学部附属病院）

2021年に薬学部薬学科を卒業し、現在に至るまで大阪大学医学部附属病院薬剤部に勤務しております。病棟薬剤師として医師や看護師とともに患者の治療に携わる一方で、栄養サポートチームにも所属しており、栄養剤の投与設計や止瀉薬・整腸剤などの薬剤使用について栄養士と一緒に検討しています。治療方針の検討や副作用症状の予測・対応について、様々な職種

の方々と協力しながら進めていくことで経験を積み、自身の成長につながっていると感じています。このような機会に巡り合えたのも、大学で講義や実習を通して臨床の基礎を学習できた賜物と考えています。

未だ至らない点は多々ありますが、日々の研鑽によって適切な医療を患者に提供できるよう精進してまいります。



小 林 裕 佳（旧姓：井本）

68期（高分子化学分野）（株式会社スズケン）

私は2022年に薬学部薬学科を卒業し、株式会社スズケンに入社して管理薬剤師をしています。製薬企業から仕入れた医療用医薬品を医療機関に卸す会社で、医薬品を適切に保存するための倉庫管理や卸先の医療機関の法的情報の管理、支店内の従業員の薬事研修等の業務をしています。大学で学んだ薬剤師としての知識と

持ち前のコミュニケーション能力を駆使しながら医薬品の安定供給に携わっています。また卸勤務薬剤師会会の教育研修委員も担っており、先日学生時代に研究でお世話になった河原一樹助教に基礎研究に関するご講演をいただきました。またプライベートでは第一子に恵まれ、現在は育休中です。育休終了後はまた医薬品卸の管理薬剤師として社会貢献できるよう精進してまいります。



山 口 桂 史

68期（生体構造機能分析学分野）（日本たばこ産業株式会社）

井上豪教授のご指導を受け、2023年に博士後期課程を修了しました。社会人博士だったため、卒業後も勤務先の日本たばこ産業（JT）にて疾患の標的タンパク質と医薬品候補化合物の構造解析の研究に従事した後、現在は部署異動に伴い、アメリカ・ボストンにてアカデミア研究者やスタートアップとの協業の機会を探索する業務を担

当しています。名だたる大学が集積し、世界中から研究者・企業・投資家が集まるエコシステムのエネルギーを日々感じ、様々なバックグラウンドを持つ方々との議論を通じて貴重な経験を積んでいます。今後はこの経験を活かし、会社への還元を通じて社会に貢献していきたいと思

「内閣府第7回日本オープンイノベーション大賞 文部科学大臣賞を受賞して」



辻 川 和 丈 大阪大学大学院薬学研究科 特任教授（院30期）

この度、薬学研究科創薬サイエンス研究支援拠点における産学官連携による創薬研究の成果の1つとして、内閣府第7回日本オープンイノベーション大賞 文部科学大臣賞の受賞の栄誉にあずかることができました。この場を

お借りして、薬友会の皆様にご報告申し上げます。

現在、日本医療研究開発機構（AMED）生命科学・創薬研究支援基盤事業（BINDS）の採択を受けて、薬学研究科に化合物ライブラリー・スクリーニングセンターと創薬センター構造展開ユニットから構成される組織として創薬サイエンス研究支援拠点を構築し、わが国のアカデミア創薬研究を推進しています。薬学研究科のBINDSの特徴としては、創薬のシームレスな研究支援とともに高度化研究の1つとして難治性がん治療創薬研究を進めています。がん治療創薬において、これまでのがん細胞株を用いた2次元培養は、生体のがん組織の特徴を有するin vitro評価系としては十分でないことから、がん患者術後組織を用いたpatient-derived cellsの使用や3次元培養系の構築と創薬研究への応用が求められている現状にあります。3次元培養系としては、高額な培養液や特殊加工したプレート等が利用できますが、アカデミア研究者からは限られた予算内で現状使用している培養系を大きく変えることなく実験できる技術が求められていました。一方、貴重な地下資源である「ベントナイト」のライフサイエンス研究領域における活用を目指していたクニミネ工業株式会社との共同研究において、合成無機層状ケイ素

化合物とBINDS高度化で展開してきたがん創薬研究と融合することにより、安価で応用性の高い培養法の構築に成功しました。さらに、がん研究にこの合成無機層状ケイ素化合物を活用できるようにするため製品化も達成しました。

「日本オープンイノベーション大賞」は、研究開発等の成果を迅速に社会実装し、社会的ニーズの解決や新たな価値の創造につなげるため、組織の壁を越えて知識や技術、経営資源を組み合わせ新しい取組を推進するオープンイノベーションにおいて、今後のロールモデルとして期待される先導性や独創性の高い取組に授与されるものです。第7回日本オープンイノベーション大賞において、産官学の連携で進めてきた研究「老舗粘土メーカーと大学との連携で誕生した革新的3次元細胞培養技術の開発」が文部科学大臣賞を受賞することができました。今後、この技術の活用により、アンメットメディカルニーズである難治性がんの創薬研究が加速されることが期待できます。

最後に、今回の受賞は、薬学研究科附属化合物ライブラリー・スクリーニングセンターの平出祥啓特任研究員の研究成果に基づくものです。さらに薬学研究科創薬サイエンス研究支援拠点のスタッフとともに、私が3月まで主宰していた細胞生理学分野のスタッフや秘書の諸氏の協力のお陰であり、心より感謝申し上げます。



「2025年度日本薬学会奨励賞を受賞して」



大 澤 昂 志 大阪大学大学院薬学研究科 助教（58期）

この度、「医薬応用を志向した機能性人工核酸材料およびリガンドコンジュゲート合成法の開発」と題して今までの私の研究成果を取りまとめ、2025年度日本薬学会奨励賞を賜りました。薬友会の皆様にご報告申し上げます。

近年、核酸医薬、mRNAワクチンなどオリゴ核酸を基盤とする治療薬が国内外問わず注目を集めています。私が所属する生物有機化学分野（小比賀聡教授）は核酸の有機化学に立脚した核酸医薬の創薬を進めている研究室で、私も学生時代から一貫して核酸医薬、特に機能性人工核酸に関する研究に携わってきました。

一方で、人工核酸の合成、誘導体化が簡単ではないために、核酸医薬の構造活性相関研究は困難とされてきました。この課題を受けて私は、オリゴ核酸を原料にした独自の反応開発を基軸とした医薬応用研究を進めてきました。その一環として、人工核酸とは異なるアプローチでオリゴ核酸を高機能化できるリガンドコンジュゲートに着目した研究に取り組んできました。リガンドコンジュゲートは、例えば、核酸医薬の標的組織特異性を付与するためのDDSとして、また、低分子創薬スクリーニングのツールであるDNAコード化ライブラリー（DEL）として利用されるなど、その用途は多岐にわたります。

ここでは、その代表的な研究成果について紹介しますが、核酸医薬の活性を高めるリガンドを探索するために、

Knoevenagel縮合やUgi反応を基盤としたコンジュゲート法を開発しました。また、開発した合成法により構築したリガンド核酸医薬コンジュゲートのライブラリーを用いたin vitroスクリーニングにより、細胞レベルで有意に活性を向上するリガンド分子を見出すことにも成功しました。今後、その活性向上メカニズムを明らかにし、核酸医薬のデリバリーに有用なリガンド分子の創出につなげたいと考えています。

私は2006年に大阪大学薬学部薬科学科に入学し、大学院を

修了後、米国Alnylam社の研究員、徳島文理大学薬学部の助教を経て、2019年1月に大阪大学大学院薬学研究科の助教に採用され現在に至っています。この間、小比賀聡先生、張功幸先生に、研究の進め方から大学教員としての在り方に至るまでご指導賜り、私が進むべき道標を示していただきました。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

今回の受賞対象研究は、多くの先生方のご指導と学生諸氏の努力の上で成り立っているものです。心より感謝いたします。

北 泰行先生「蓬庵社賞」ご受賞のご報告



本学名誉教授・北 泰行先生が、蓬庵社賞を受賞されました。

蓬庵社賞は、公益財団法人蓬庵社の設立70周年を記念して、日本薬学会会員で、薬学の領域において、これまでの研究の流れを変えるような、インパクトのある研究成果を上げて薬学研究

に貢献された研究者を褒章するものです。

北先生は長年大阪大学教授を務められたのち、さらに立命館大学薬学部初代学部長、同大学総合科学技術研究機構副機構長・同創薬科学研究センター長、同大学招聘研究教授を務められ、現在は、同大学上席研究員に就かれておられます。

研究面では、長年にわたり新規合成法・新規反応剤などの革新的な有機化学的手法の開発研究を行ってこられました。特に、超原子価ヨウ素反応剤を用いる合成研究で世界を牽引されました。例えば、同反応剤を用いて金属反応剤を使わないクロスカップリング反応を世界で初めて実現し、この分野に大きなインパクトを与えました。また、医薬品創製研究に資する反応開発で多くの成果をあげ、創薬研究の進展に寄与されました。独自の反応を活用した抗腫瘍活性天然物フレデリカマイシン A やディスコハブディン A の世界初の不斉全合成、創薬先導化合物の合成研究などにその例を見ることができます。北博士の研究成果は、Ang. Chem. Int. Ed.や J. Am. Chem. Soc. など化学系屈指の専門誌に掲載され、欧文誌約 500 報、被引用数 20,000 回以上、h-index 75 等に表れています。また、日本薬学会（理事、化学系薬学部会長、監事、有功会員）の他、多くの学協会、財団法人理事、評議員、賞選考委員長、シンポジウム組織委員長、国際誌編集委員などを歴任されました。現在、米国化学会（ACS）Emeritus Member、国際複素環化学会議（ISHC）Senior Fellow に選出されておられます。

このように長年にわたり薬学領域に多大な貢献をされたことが高く評価され、この度の褒章の受賞となりました。

北先生への贈呈は、令和6年7月8日、ヒルトン大阪にて開催されました、公益財団法人蓬庵社設立70周年 蓬庵社賞贈呈式・受賞記念講演会において、執り行われました。

北先生、この度のご受賞を、心よりお祝い申し上げますとともに、益々のご発展をお祈り申し上げます。

私は大阪大学で学生として、その後、助手、助教授、教授として計41年間在籍し、続いて立命館大学では17年間教授や研究員として現在もお世話になっております。この度、公益財団法人蓬庵社創設70周年を記念しての栄えある賞を頂き、身に余る光栄と大変有難く思っております。これも多くの素晴らしい学生や職員、特に大阪大学時代に共同研究者に恵まれたお陰と心から感謝の気持ちでいっぱいです。なお、褒章金の一部は大阪大学未来基金と薬学部、並びに立命館大学総合科学技術研究機構に寄付させて頂きました。



（受賞者2名：左、生物系・医学系 杉山雄一 博士、右、化学系・物理系 北 博士）

奨励賞

阪 一 穂

薬品製造化学分野

2025年度以降の所属：大阪大学大学院薬学研究科 機能分子製造化学分野 博士研究員

この度、令和6年度博士課程論文発表会にて、「アルキルスルホニウム塩を基盤とした重水素化アルキル基導入法の開発」という研究課題で、大阪大学沢井記念薬友会賞奨励賞を拝受いたしました。

重水素 (^2H , D) は、水素 (H) の放射性の無い安定同位体です。炭素 (C) - 重水素 (D) 結合は、炭素 (C) - 水素 (H) 結合よりも強固である速度論的同位体効果 (KIE) が知られています。ところで、医薬品分子の C-H 結合はシトクロムP450 (CYP) により酸化されて、医薬品は代謝されていきます。したがって、代謝部位の C-H 結合をより安定な C-D 結合に置換された重水素化医薬品 (重医薬品) では、CYPによる医薬品の代謝が抑制され、薬物動態や毒性プロファイルの改善が期待されます。2017年に deuterabenazine が FDA によって初の重医薬品として承認されて以降、重医薬品の研究開発競争が激化しています。しかし、重医薬品候補化合物の合成に利用可能な重水素化試薬は種類が限られており、その多様化が切望されています。

私の博士論文研究では、重医薬品の多様化に資する新たな重水素化アル

キル (重アルキル) 基導入法の開発に取り組みました。この際、安価で入手容易な「重水」を重水素源として用いることを基本戦略としました。種々検討の結果、アルキルスルホニウム塩の反応特性を上手く利用して、様々な重アルキル化試薬の合成法を確立しました。また、これらの重アルキル化試薬を用いることで、多様な医薬品類縁体の合成に成功しました。さらに、開発した重アルキル化試薬を用いて合成した重エチル化体では、対応する水素置換体と比較してCYP代謝安定性が改善することを見出しました。これは、重エチル化体でKIEを観測できた初の例です。これらの成果は、これまで困難とされた重医薬品の合成を可能とし、重水素創薬の発展に寄与することが期待されます。これらの成果は、国際学術誌 *Angew. Chem. Int. Ed.* (2023) と *Bull. Chem. Soc. Jpn.* (2024) に掲載されました。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたりご指導ご鞭撻を賜りました赤井周司教授 (現名誉教授)、澤間善成准教授 (現教授)、薬品製造化学分野の皆様、ならびに、本研究にご協力頂きました多くの共同研究者の皆様へ心より御礼申し上げます。

西 尾 幸 也

薬品製造化学分野

2025年度以降の所属：産業技術総合研究所 触媒化学研究部門

令和6年度博士課程論文発表会において、「光学活性化化合物の自在合成を目指した動的速度論的光学分割法の開発」という演題で、大阪大学沢井記念薬友会賞奨励賞を賜りました。このような貴重な賞を頂くことができ、大変光栄に存じます。この場をお借りして、春田純一会長をはじめ薬友会の皆様に心より御礼申し上げます。

動的速度論的光学分割 (DKR) は、ラセミ化反応と光学分割反応を組み合わせることで、ラセミ体原料から光学活性体への収束合成を実現する手法です。しかし、従来のDKRにおいてはラセミ化の研究が十分に進んでおらず、適用可能な化学種が限られていました。加えて、DKRで広く用いられている加水分解酵素リパーゼは、天然アミノ酸のホモキラリティに由来する立体選択性の偏りがあります。その結果、従来のリパーゼを用いたDKRではS体生成物への収束合成が困難とされてきました。そこで本博士論文では、「スルホキシドの触媒的ラセミ化反応の開発」と「リパーゼを用いたS体生成物収束型DKRの開発」という2つの課題に取り組みました。

前者においては、固相担持型オキソパナジウム触媒を用いたスルホキシドの熱的ラセミ化法を開発しました。この反応は、今後スルホキシドのDKR法の基盤技術として応用されることが期待されます。後者においては、S体生成物に収束可能な反応系の設計に取り組み、油水複数相中での3つの素反応を組み合わせた新たな手法を構築しました。特に、Pickeringエマルジョンを活用することで、反応相の分画と共存を実現し、同一のリパーゼを用いて両光学活性体の自在な合成を可能としました。これらの研究成果は、多様な化学種に対する光学活性体の自在合成法の確立に寄与するものと期待されます。

最後になりましたが、本研究の遂行にあたり、多大なるご指導とご助力を賜りました赤井周司教授、澤間善成准教授、鹿又喬平助教をはじめ、ご協力いただいた共同研究者の先生方、ならびに薬品製造化学分野の皆様へ心より感謝申し上げます。

若手奨励賞

児 嶋 励 央

神経薬理学分野 学部6年

この度、令和6年度長期課題研究発表会におきまして、「細胞種特異的プロモーター搭載型AAVベクターにおける遺伝子発現効率と特異性の最適化方法の確立」と題した研究を発表し、薬友会賞若手奨励賞を拝受いたしました。

アデノ随伴ウイルス (AAV) ベクターは、中枢神経系の様々な神経細胞を標的として、遺伝子導入を行うためのツールとして汎用されています。しかし、標的とする細胞種に特異的な遺伝子発現ができるAAVベクターには、高い性能や汎用性の実現に課題がありました。そこで本研究では、AAVベクターの遺伝子発現に関する制御性配列に着目して、その最適化を行うことで、細胞種特異的かつ高効率な遺伝子発現ができるAAVシステ

ムの構築を目指しました。その結果、オキシトシン神経・セロトニン神経・ドパミン神経に対して、特異的に発現するAAVシステムを構築するとともに、軸索の全脳投射パターンの可視化やゲノム編集技術への応用を示しました。今後は、本システムの改良・拡張に着手し、更なる性能の向上と多目的への応用を目指します。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたり、ご指導を賜りました橋本均先生、勢力薫先生をはじめとする神経薬理学分野の皆様、名古屋大学の笠井淳司先生、ならびに学生生活を支援して下さいました家族、友人へ心より感謝申し上げます。

井 上 采 人

臨床薬効解析学分野 学部6年

2025年度以降の所属：大阪大学大学院医学系研究科 博士課程1年

この度、令和6年度長期課題研究発表会におきまして、「脳内薬物送達を促進するClaudin-5結合低分子の開発」という演題で、薬友会賞若手奨励賞を拝受いたしました。このような素晴らしい賞を頂き、大変光栄に存じます。

血脳関門 (BBB) は脳を保護する生体バリアである反面、薬物の脳内移行も阻害するため脳疾患治療薬開発の障壁となっています。この強力なバリアの主な構成要素は、脳血管内皮細胞同士の密着結合であり、密着結合因子Claudin-5が重要な役割を果たします。私は、Claudin-5に結合し、その機能を調節することで、薬物を脳内送達する低分子化合物の開発を試

みました。独自のスクリーニング系を用いて低分子化合物 (CL5B) を同定し機能評価を行ったところ、CL5Bが一過的にBBB機能を調節して脳内へ物質を送達することが示されました。さらに、CL5Bを用いて、脳内移行性の低い薬を送達し、脳疾患を治療できることを示しました。本分子はBBBを短時間しか開口しないため、安全性の高い脳内薬物送達技術となることが期待されます。

最後になりますが、本研究の遂行にあたりご指導、ご支援を賜りました藤尾慈先生、岡田欣晃先生をはじめとする臨床薬効解析学分野の皆様へ心より感謝申し上げます。

若手奨励賞

高 島 美 怜

医薬合成化学分野 学部6年
2025年度以降の所属：塩野義製薬株式会社

このたびは、薬友会賞若手奨励賞という荣誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。まず初めに、本研究を支えてくださった指導教員の先生方、そして日頃よりご指導・ご協力を賜っている関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

研究の過程では数多くの困難に直面しましたが、試行錯誤を重ねる中で新たな発見や学びがあり、それが今回の成果につながったと実感しております。このような素晴らしい賞をいただけたことは、大きな励みとなり、大変うれしく思います。また、恵まれた環境と支えてくださった方々のお

かげで、大阪大学薬学部にて充実した研究に取り組めたことに、深く感謝いたします。

今後も、この貴重な経験を活かし、社会においてより多くの方々に貢献できる成果を生み出せるよう精進してまいります。

最後になりますが、研究を支えてくださった皆様に改めて深く御礼申し上げますとともに、本賞の選考に携わってくださった審査員の先生方にも心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

橋 本 壮一郎

創薬ナノデザイン学分野 学部6年
2025年度以降の所属：ロート製薬株式会社

この度、「経鼻ワクチンの浸透圧上昇による免疫原性の増強」と題した研究課題にて、令和6年度長期課題研究発表会の薬友会若手奨励賞を拝受いたしました。

経鼻ワクチンは、粘膜免疫を誘導することで、病原体の呼吸器感染を阻害すると考えられています。しかし、免疫原性の低さが課題であり、臨床試験に進んだアデノウイルスベクター（AdV）を用いた経鼻ワクチンも免疫原性の改善が課題となっています。本研究では、AdV経鼻ワクチンの効果上昇を目指す中で、グリセロールの添加が免疫原性を高めることを見出しました。添加剤で高張にしたAdV経鼻ワクチンは、鼻腔上皮細胞への

AdVの感染を促進することで、免疫原性を増強しました。さらに、グリセロールの添加はタンパク質抗原を用いた経鼻ワクチンの免疫原性も増強しました。本手法は、簡便かつ安全に経鼻ワクチンの免疫原性を高められる点で実用性が高いものと考えられます。

最後になりますが、本研究の遂行にあたりご指導、ご鞭撻を賜りました創薬ナノデザイン学分野の吉岡靖雄特任教授、平井敏郎特任講師、清水太郎特任講師をはじめとする研究室の皆様、また学生生活を支援してくれた家族に心より感謝申し上げます。

丸 山 陸 斗

生物有機化学分野 博士前期課程2年
2025年度以降の所属：マルホ株式会社

令和6年度修士論文発表会におきまして、「8-17 DNAzymeのRNA切断活性に構造自由度および標的鎖に対する結合力の変化が及ぼす影響」という演題で薬友会賞若手奨励賞を拝受いたしました。荣誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。

8-17 DNAzymeは、二価金属イオン存在下において、高い選択性でRNA鎖を切断できることから、疾患原因遺伝子の発現制御への応用が期待されています。2017年、RNA鎖と結合した8-17 DNAzymeがV字型構造を呈することがX線結晶構造解析により明らかにされ、この構造を基に触媒機構の解明が進められてきました。本研究では、この構造が真に切断反応に必

要な活性化状態であるかを実験的に検証し、触媒機構に関する詳細な知見を得ることとしました。方法として、8-17 DNAzymeの両端を別のDNA鎖により繋ぎ止めて構造を制御し、機能評価しました。その結果、結晶構造に近いV字型へと構造制御した場合に高い活性が観察されました。さらに、円二色性分析により、この活性向上が活性発現に必須な金属イオンの捕捉能の増強によるものであることを明らかにしました。

本研究の遂行にあたり、ご指導とご鞭撻を賜りました小比賀聡先生、山口卓男先生をはじめとする生物有機化学分野の皆様、ならびに家族・友人に深く御礼申し上げます。

下 栗 玲 慈

医薬合成化学分野 博士前期課程2年
2025年度以降の所属：ペーリンガーインゲルハイム製薬株式会社

この度、令和5年度修士論文発表会におきまして、「演題：5位および13位に含硫黄ヘテロ環を導入したイソインドロ [2,1-a] キノリン誘導体の合成と光学特性評価」という演題で薬友会賞若手奨励賞を拝受いたしました。2光子励起とは、蛍光色素が2つの光子を同時に吸収し励起を起こす現象であり、光子1つあたり半分のエネルギー、すなわち近赤外光での励起が可能です。また、遷移確率が非常に低いという特徴から、焦点付近でしか励起は起こらず、より解像度が高いイメージングが可能となります。私は、先行研究で得た2光子励起特性を有する多環式化合物イソインドロ [2,1-a] キノリンの5位および13位に含硫黄ヘテロ環を導入することで、

より光学特性の高い蛍光色素の設計・合成に取り組みました。また、導入した含硫黄ヘテロ環を酸化することで光学特性にどのような影響を与えるのかを調査いたしました。最後になりましたが、本研究を遂行するにあたりご指導、ご鞭撻を賜りました有澤光弘先生、中山淳先生、佐古真先生をはじめとする医薬合成化学分野の諸氏、ならびに家族・友人に心より感謝申し上げます。

薬友会賞受賞の喜び2025年度以降の所属一覧

令和6年度 大阪大学沢井記念薬友会賞受賞者

奨励賞（博士課程、博士後期課程）

阪 一穂

薬品製造化学分野

2025年度以降の所属：大阪大学大学院薬学研究科 機能分子製造化学分野 博士研究員

西尾 幸也

薬品製造化学分野

2025年度以降の所属：産業技術総合研究所 触媒化学研究部門

若手奨励賞（学部6年生）

児嶋 励央

神経薬理学分野

若手奨励賞（学部6年生）

井上 采人

臨床薬効解析分野

2025年度以降の所属：大阪大学大学院医学系研究科 博士課程1年

高島 美怜

医薬合成化学分野

2025年度以降の所属：塩野義製薬株式会社

橋本壮一郎

創薬ナノデザイン学分野

2025年度以降の所属：ロート製薬株式会社

若手奨励賞（博士前期）

丸山 陸斗

生物有機化学分野

2025年度以降の所属：マルホ株式会社

下栗 玲慈

医薬合成化学分野

2025年度以降の所属：ペーリンガーインゲルハイム製薬株式会社

受賞者紹介

(分子生物学分野)

清水 かほり

院58期生 大阪大学大学院薬学研究科 准教授

学会名 日本遺伝子細胞治療学会
課題名 肝臓におけるリソリン脂質アシル転移酵素10の高発現による糖尿病の新規遺伝子治療法の開発
賞の名称 タカラバイオ研究奨励賞2024
受賞日 令和6年7月17日

乾 達也

院67期生 大阪大学大学院薬学研究科 特任研究員

学会名 第14回レギュラトリーサイエンス学会学術大会
課題名 安定して高い小腸機能を有するヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞の作製
賞の名称 優秀口演者賞
受賞日 令和6年9月14日

学会名 日本薬物動態学会
課題名 Comparison of human biopsy-derived and human iPS cell-derived intestinal organoids established from a single individual
賞の名称 DMPK賞 1st
受賞日 令和6年9月16日

仲谷 隼

院71期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第74回日本薬学会関西支部総会・大会
課題名 鼻腔内投与型アデノウイルスベクターワクチンのメカニズム解析
賞の名称 優秀口頭発表賞
受賞日 令和6年10月21日

奥村 風香

73期生 大阪大学薬学部

学会名 第74回日本薬学会関西支部総会・大会
課題名 サルアデノウイルスを基盤としたウイルスベクターの遺伝子導入特性の検討
賞の名称 優秀口頭発表賞
受賞日 令和6年10月21日

渡邊 陽

73期生 大阪大学薬学部

学会名 第74回日本薬学会関西支部総会・大会
課題名 2次元培養によるヒト肝臓オルガノイドの安定的な分化・成熟化手法の確立
賞の名称 優秀口頭発表賞
受賞日 令和6年10月21日

学会名 日本薬学会第145年会
課題名 2次元培養によるヒト肝臓オルガノイドの安定的な分化・成熟化手法の確立
賞の名称 学生優秀発表賞（口頭発表）
受賞日 令和7年4月25日

小阪田 悠生

院70期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会第145年会
課題名 CRISPR-Cas13システム搭載アデノウイルスベクターを用いた培養細胞およびマウス生体における遺伝子ノックダウンに関する検討
賞の名称 学生優秀発表賞（口頭発表）
受賞日 令和7年4月25日

好光 恵梨子

72期生 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会第145年会
課題名 患者血清由来B型肝炎ウイルスゲノムを標的としたCRISPR-Cas12a搭載アデノウイルスベクターの有効性評価
賞の名称 学生優秀発表賞（口頭発表）
受賞日 令和7年4月25日

(生物有機化学分野)

山口 卓男

院51期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会
課題名 分子認識の可視化と制御に基づく創薬基盤技術の開発
賞の名称 化学系薬学部会賞
受賞日 令和6年10月28日

大澤 昂志

58期生 大阪大学大学院薬学研究科

課題名 核酸医薬に有用なりガンドコンジュゲート合成法および機能性人工核酸開発の研究
賞の名称 大阪大学賞（若手教員部門）
受賞日 令和6年11月26日

学会名 日本薬学会
課題名 医薬応用を志向した機能性人工核酸材料およびリガンドコンジュゲート合成法の開発
賞の名称 奨励賞
受賞日 令和7年3月26日

尾田 ちひろ

71期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本核酸医薬学会第9回年会
課題名 Gapmer型アンチセンス核酸のLNA導入パターンが標的RNAとの結合速度およびターンオーバーステップにおける標的RNA置換速度に与える影響
賞の名称 川原賞
受賞日 令和6年7月18日

(細胞生理学分野)

山田 麻奈未

71期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会第144年会
課題名 RNA脱メチル化酵素ALKBH3の酵素活性阻害化合物による膵がん治療創薬
賞の名称 優秀発表賞（口頭発表の部）
受賞日 令和6年4月23日

学会名 第47回分子生物学会年会
課題名 膵がんにおけるRNA脱メチル化酵素ALKBH3によるエピトランスクリプトミクス制御の解析
賞の名称 MBSJ2024ポスター賞（MBSJ-EMBO Poster Award）
受賞日 令和6年12月2日

島田 悠妃

71期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会第144年会
課題名 LATS阻害剤を用いた膠芽腫幹細胞を標的とする創薬展開
賞の名称 優秀発表賞（口頭発表の部）
受賞日 令和6年4月23日

辻川 和丈

院30期 大阪大学大学院薬学研究科 教授

学会名 内閣府第7回日本オープンイノベーション大賞
課題名 老舗粘土メーカーと大学との連携で誕生した革新的3次元細胞培養技術の開発
賞の名称 文部科学大臣賞
受賞日 令和7年2月5日

(毒性学分野)

出原 若葉

72期生 大阪大学薬学部

学会名 第51回日本毒性学会学術年会
課題名 マイクロ・ナノプラスチックの細胞内動態解明に向けた検討
賞の名称 学生ポスター発表賞
受賞日 令和6年7月4日

佐伯 悠真

73期生 大阪大学薬学部

学会名 第51回日本毒性学会学術年会
課題名 銀ナノ粒子曝露による雄性生殖能に対する毒性の評価
賞の名称 学生ポスター発表賞
受賞日 令和6年7月4日

芳賀 優弥

64期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第40回日本DDS学会学術集会
課題名 非小細胞肺癌における上皮成長因子受容体阻害剤抵抗性細胞の生存機構解明
賞の名称 優秀発表賞
受賞日 令和6年7月11日

芹澤 杏萌

73期生 大阪大学薬学部

学会名 The 40th Annual Meeting of KSOT/KEMS
課題名 Functional analysis of amino acid transporter SLC6A19 in placental syncytialization
賞の名称 KSOT Travel Award for young toxicologist
受賞日 令和6年11月4日

寶 閣 美依

73期生 大阪大学薬学部

学会名 The 40th Annual Meeting of KSOT/KEMS
課題名 Production of fluorescent polyethylene nanoplastics for dynamic analysis applications
賞の名称 KSOT Travel Award for young toxicologist
受賞日 令和6年11月4日

(神経薬理学分野)

粟生 智香

特（兼）連合小児発達学研究所 助教

学会名 第98回日本薬理学会年会（APPW2025）
課題名 Physiological role of immune-brain communication by extracellular vesicles under septic circulation failure
賞の名称 年会優秀発表賞
受賞日 令和7年3月19日

村田 拳一郎

72期生 大阪大学薬学部

学会名 第67回日本神経学会大会（Neuro2024）
課題名 Prenatal PGD2-DP1 signaling activation exhibits behavioral abnormalities associated with autism-like mental/behavioral disorders in mice
賞の名称 ジュニア研究者ポスター賞
受賞日 令和6年7月27日

北川航平

68期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 35th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology
課題名 POGZ mutant mouse model of autism spectrum disorder shows abnormal neural activity in the anterior cingulate cortex during social behavior
賞の名称 Student Encouragement Award and JSNP Excellent Presentation Award for CINP
受賞日 令和6年5月26日

学会名 日本薬学会第144年会
課題名 自閉スペクトラム症モデルPOGZ変異マウスの前帯状皮質領域に着目した社会性行動異常に関する病態解析
賞の名称 学生優秀発表賞（口頭発表）
受賞日 令和6年4月23日

國丸颯生

73期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会第145年会
課題名 敗血症性ショック時における単球脳浸潤の意義の解析
賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター発表）
受賞日 令和7年4月25日

横山泰久

72期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会第144年会
課題名 社会的敗北ストレス曝露による前障神経細胞の活動変化
賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター発表）
受賞日 令和6年4月23日

（薬剤学分野）

田谷まる美

院71期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会第145年会
課題名 アレルギー性気管支喘息モデルマウスにおけるシリコン製剤の抗アレルギー作用の検討
賞の名称 学生優秀発表賞（口頭発表）
受賞日 令和7年4月25日

鈴木喬介

72期生 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会第145年会
課題名 変異型SARS-CoV-2を高効率で中和する共有結合型ACE2-Fcの開発
賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター発表）
受賞日 令和7年4月25日

（臨床薬効解析学分野）

井上采人

71期生 大阪大学薬学部

学会名 第9回血管生物医学会若手研究会
課題名 血液脳関門を一過的に制御して薬物の脳内送達を促進する低分子化合物の開発
賞の名称 入門型セッション最優秀賞
受賞日 令和6年6月18日

富松聖史

68期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2024
課題名 1細胞RNAシーケンス解析を用いた、新規梗塞後心筋リモデリング機構の解明
賞の名称 優秀口頭発表賞（若手研究者部門）
受賞日 令和6年8月31日

学会名 第34回日本循環薬理学会学術集会
課題名 1細胞RNAシーケンス解析を用いた、梗塞後心筋リモデリングの制御を担うミエロイド細胞の探索と機構解明
賞の名称 Young Investigator Award
受賞日 令和6年12月20日

梶浦僚太

71期生 大阪大学薬学部

学会名 第146回日本薬理学会近畿部会
課題名 心筋梗塞病態におけるミエロイド細胞由来TGFβ3の病態生理学的意義解明
賞の名称 優秀発表賞
受賞日 令和6年11月30日

長曽我部 怜也

71期生 大阪大学薬学部

学会名 第146回日本薬理学会近畿部会
課題名 ボドサイトにおける転写因子OASISは高リン負荷誘発腎障害に関与する
賞の名称 優秀発表賞
受賞日 令和6年11月30日

高山結衣

71期生 大阪大学薬学部

学会名 CVMW2024
課題名 血管内皮細胞特異的分子Robo4が感染症病態を抑制するメカニズムの解析
賞の名称 Poster Award 優秀賞
受賞日 令和6年12月8日

森翔太

67期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 APPW2025第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会
課題名 Dad1 and Stt3A are essential for N-glycosylation of integrins and promote cardiomyocyte survival
賞の名称 Graduate Student Presentation Award
受賞日 令和7年3月19日

白野敦也

73期生 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会第145年会
課題名 Claudin-5結合低分子を用いた血液脳関門の制御と脳内薬物送達の促進
賞の名称 学生優秀発表賞（口頭発表）
受賞日 令和7年4月25日

（生体構造機能分析学分野）

井上豪

特 大阪大学大学院薬学研究科

課題名 二酸化塩素によるメタン酸化の反応開発と応用化に関する研究
賞の名称 令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）
受賞日 令和6年4月9日

浅原時泰

特 大阪大学大学院薬学研究科

課題名 二酸化塩素によるメタン酸化の反応開発と応用化に関する研究
賞の名称 令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）
受賞日 令和6年4月9日

関口健昌

70期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第48回有機電子移動化学討論会・第18回有機電子移動化学若手の会
課題名 メカノケミカル生成二酸化塩素を用いたスルフィドの固相酸素化
賞の名称 優秀ポスター賞
受賞日 令和6年6月22日

中川 瞳

71期生 大阪大学薬学部

学会名 第2回MA-T学会年会（2024）
課題名 DMSOをメチレン源とするエポキシドからの1,3-ジオキソラン合成法の開発
賞の名称 ポスター賞
受賞日 令和6年11月30日

藤森大志

72期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第2回MA-T学会年会（2024）
課題名 二酸化塩素光酸化を起点とした基盤上グラフェンの新規修飾とタンパク質の固定化
賞の名称 ポスター賞
受賞日 令和6年11月30日

喜多川 珠 吏

73期生 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会第145年会
課題名 四員環縮環ジベンゾアゼピン誘導体の合成と回転異性体挙動
賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター発表）
受賞日 令和7年4月25日

（医薬合成化学分野）

北 泰行

院15 立命館大学 総合科学技術研究機構・上席研究員／大阪大学名誉教授

賞の名称 逢庵社賞
受賞日 令和6年7月8日

中原 佳 苗

71期生 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会第144年会
課題名 Ansellone J構造単純化類縁体の構造活性相関研究
賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター発表）
受賞日 令和6年4月23日

伊藤元氣

院54 明治薬科大学 講師

学会名 日本薬学会関東支部
課題名 新奇前駆体の創出を基盤とする実用的アライン発生法の開発
賞の名称 奨励賞
受賞日 令和5年9月14日

関口 李 子

院72 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 2024年度有機合成化学北陸セミナー
課題名 蛍光量子収率改善を目指した多置換イソインドロ[2,1-a]キノリン誘導体の設計と合成・光学特性評価
賞の名称 優秀発表賞（ポスター）
受賞日 令和6年9月28日

佐 古 真

特 大阪大学大学院薬学研究科

課題名 環境調和型創薬を指向したヘテロ環形成反応と不斉有機分子触媒の研究
賞の名称 大阪大学賞（若手教員部門）
受賞日 令和6年11月26日

（量子生命情報薬学分野）

宮 川 柊 兵

76期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 CBI学会2024年大会
課題名 Dynamical Interaction Energy Analysis of Elastase in Each Reaction State: Insights from Molecular Dynamics and Fragment Molecular Orbital Calculations
賞の名称 Like! Poster Award
受賞日 令和6年10月31日

（天然物創薬学分野）

堀 田 春 香

院70期 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第10回食品薬学シンポジウム
課題名 抗結核菌活性物質3-(phenethylamino)demethyl(oxy)-aaptamineの標的分子解析
賞の名称 優秀発表賞
受賞日 令和6年10月21日

一 色 新之介

院71期 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会第145年会
課題名 Mycobacterium属細菌による真菌二次代謝産物の産生誘導とその作用機序の解明
賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター発表）
受賞日 令和7年4月25日

（定量生命物理化学分野）

村 本 龍 希

72期生 大阪大学薬学部

学会名 第21回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム（PPF2024）
課題名 クライオ電子顕微鏡によるETEC由来IV型線毛の立体構造解析
賞の名称 若手研究者奨励賞
受賞日 令和6年8月23日

（機能分子製造化学分野）

阪 一 穂

院70期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 29th International Society of Heterocyclic Chemistry Congress
課題名 Development of various deuterated alkylating reagents using D2O for drug discovery
賞の名称 Best Poster Presentation
受賞日 令和6年7月26日

学会名 CAS, a division of the American Chemical Society
課題名 Development of novel deuterated alkylation reagents for drug discovery
賞の名称 2025 CAS Future Leaders
受賞日 令和7年3月20日

学会名 日本薬学会145年会
課題名 N-アルキルピリジニウム塩を基盤とした重アルキル化試薬の開発
賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター）
受賞日 令和7年4月25日

西 尾 幸 也

院68期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第24回生体触媒化学シンポジウム
課題名 R体選択的リパーゼによるエステルS体収束型脱ラセミ化反応
賞の名称 最優秀口頭発表賞
受賞日 令和6年11月1日

学会名 第24回生体触媒化学シンポジウム
課題名 R体選択的リパーゼによるエステルS体収束型脱ラセミ化反応
賞の名称 優秀ポスター賞
受賞日 令和6年11月1日

学会名 日本薬学会145年会
課題名 Pickeringエマルションを利用した天然型リパーゼによるS体エステル収束型動的速度論的光学分割法の開発
賞の名称 学生優秀発表賞（口頭）
受賞日 令和7年4月25日

吉 村 奏 汰

74期 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会145年会
課題名 電子求引基が置換したフランを基質とした電子求引基の転位を介するワンポット多置換ベンゼン誘導体合成
賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター）
受賞日 令和7年4月25日

戸 上 真 輝

73期 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会145年会
課題名 光触媒を用いた窒素原子隣接位選択的H/D交換反応
賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター）
受賞日 令和7年4月25日

相 嶋 孝 亮

院69期 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会145年会
課題名 Rubioncolin Bの合成研究
賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター）
受賞日 令和7年4月25日

文 志 勲

70期 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会145年会
課題名 Pickeringエマルションによる反応場分離を利用した第三級アルコール3-hydroxy-2-oxindole誘導体のラセミ化
賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター）
受賞日 令和7年4月25日

鹿 又 喬 平

大阪大学大学院薬学研究科 助教

学会名 日本薬学会
課題名 Pickeringエマルションを反応場とする動的速度論的光学分割の新戦略
賞の名称 関西支部奨励賞
受賞日 令和7年1月17日

（創薬ナノデザイン学分野）

千 福 航 太

院69期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬剤学会第39年会
課題名 ワクチン製造への応用を目指したエンテロウイルスD68由来Vero細胞馴化株の開発
賞の名称 最優秀発表者賞
受賞日 令和6年5月24日

本 田 昂 湧

73期生 大阪大学薬学部

学会名 第40回日本DDS学会学術集会
課題名 mRNAワクチンによる副反応誘導のメカニズム解析
賞の名称 優秀発表賞（口頭）
受賞日 令和6年7月10日

学会名 第28回日本ワクチン学会・第65回日本臨床ウイルス学会 合同学術集会
課題名 mRNAワクチンにおける副反応誘導メカニズムの解析
賞の名称 若手奨励賞
受賞日 令和6年10月26日

平 田 陽 暉

72期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 令和6年度微生物病研究所研究業績発表会
課題名 Exploration of adjuvants to enhance the efficacy of mRNA cancer vaccine
賞の名称 優秀ポスター賞
受賞日 令和7年1月24日

学会名 日本薬学会第145年会
課題名 mRNAがんワクチンの効果増強に資するアジュバントの探索
賞の名称 学生優秀発表賞
受賞日 令和7年4月25日

谷 口 倅 太郎

74期生 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会第145年会
課題名 エンテロウイルスD68に対するウイルス様粒子ワクチンの開発
賞の名称 学生優秀発表賞
受賞日 令和7年4月25日

令和6年度マルホ大学院生等海外派遣 令和6年度大阪大学薬学部・大学院薬学研究科海外研修助成制度 「大学院生海外派遣」採択者一覧

阪 一 穂 博士課程 3 年

目 的：2024年7月にポルトガルで開催される国際学会「29th International Society of Heterocyclic Chemistry Congress」に参加して自身の研究成果について発表し、議論する。

派遣期間：2024/7/20～2024/7/26

派遣先：ポルトガル（アヴェイロ）

森 翔 太 博士後期課程 3 年

目 的：American Heart Associationが主催するBasic Cardiovascular Sciences Scientific Sessions 2024に参加し、自身の研究成果について発表・議論を行う。

派遣期間：2024/7/22～2024/7/26

派遣先：アメリカ合衆国（シカゴ）

全 嬌 然 博士後期課程 2 年

目 的：26th North American Meeting of International Society for the Study of Xenobiotics and the 39th Japanese Society for the Study of Xenobiotics (ISSX/JSSX)に参加し、研究成果を発表する。また、関連分野の情報収集を行い、今後の研究に役立てる。

派遣期間：2024/9/14～2024/9/20

派遣先：アメリカ合衆国（ホノルル）

吉 村 友 希 博士課程 1 年

目 的：20th Annual Meeting of the oligonucleotide Therapeutics Society (OTS) に参加する。研究成果をポスター発表することで海外の研究者と議論を行い、研究のさらなる発展に繋げる。加えて、世界中で行われている最先端の研究の情報収集を行う。

派遣期間：2024/10/5～2024/10/11

派遣先：カナダ（モントリオール）

仁田峠 海 斗 博士課程 1 年

目 的：20th Annual Meeting of the oligonucleotide Therapeutics Society (OTS) に参加する。これまでの研究成果をポスター発表することで海外の研究者とその内容について議論するとともに、他の研究者の最新の研究成果を聴講・議論することが目的である。

派遣期間：2024/10/5～2024/10/11

派遣先：カナダ（モントリオール）

北 本 夏 子 博士課程 2 年

目 的：ASCEPT, APFP & APSA Joint Congressに参加し、研究成果発表および情報収集を行う。自身の研究分野である化学物質の細胞老化毒性についての知識を深めるとともに、様々な領域の研究者と積極的に議論を交わすことで得られる新たな知見や視点を自身の今後の研究に生かすことが目的である。

派遣期間：2024/11/30～2024/12/5

派遣先：オーストラリア（メルボルン）

周 未 博士後期課程 1 年

目 的：ASCEPT, APFP & APSA Joint Congressに参加し、研究成果発表および情報収集を行う。世界各国から集まる研究者と積極的に議論を交わすことで得られる新たな知見を、自身の今後の研究に応用することが目的である。

派遣期間：2024/11/30～2024/12/5

派遣先：オーストラリア（メルボルン）

金 田 侑 樹 博士後期課程 2 年

目 的：Cold Spring Harbor Laboratoryにて行われるGerm Cellsに参加し、研究成果の報告を行う。また、海外の研究者との交流を深める。

派遣期間：2024/10/6～2024/10/11

派遣先：アメリカ合衆国（ニューヨーク）

林 健 宇 博士後期課程 2 年

目 的：SKOシンポジウム（ソウル国立大学薬学部・京都大学薬学部・大阪大学薬学部で共同開催するシンポジウム）に参加して、研究成果を口頭で発表し、議論する。

派遣期間：2024/11/18～2024/11/20

派遣先：大韓民国（ソウル）

高 月 雅 春 博士後期課程 2 年

目 的：SKOシンポジウム（ソウル国立大学薬学部・京都大学薬学部・大阪大学薬学部で共同開催するシンポジウム）に参加して、研究成果を口頭で発表し、議論する。

派遣期間：2024/11/18～2024/11/20

派遣先：大韓民国（ソウル）

伊 原 和 利 博士課程 1 年

目 的：SKOシンポジウム（ソウル国立大学薬学部・京都大学薬学部・大阪大学薬学部で共同開催するシンポジウム）に参加して、研究成果を口頭で発表し、議論する。

派遣期間：2024/11/18～2024/11/20

派遣先：大韓民国（ソウル）

関 口 李 子 博士課程 1 年

目 的：SKOシンポジウム（ソウル国立大学薬学部・京都大学薬学部・大阪大学薬学部で共同開催するシンポジウム）に参加して、研究成果を口頭で発表し、議論する。

派遣期間：2024/11/18～2024/11/20

派遣先：大韓民国（ソウル）

眞 下 怜 汰 博士課程 1 年

目 的：SKOシンポジウム（ソウル国立大学薬学部・京都大学薬学部・大阪大学薬学部で共同開催するシンポジウム）に参加して、研究成果を口頭で発表し、議論する。

派遣期間：2024/11/18～2024/11/20

派遣先：大韓民国（ソウル）

前 光 結 博士後期課程 1 年

目 的：SKOシンポジウム（ソウル国立大学薬学部・京都大学薬学部・大阪大学薬学部で共同開催するシンポジウム）に参加して、研究成果を口頭で発表し、議論する。

派遣期間：2024/11/17～2024/11/20

派遣先：大韓民国（ソウル）

伊 藤 佑太郎 学部 5 年

目 的：SKOシンポジウム（ソウル国立大学薬学部・京都大学薬学部・大阪大学薬学部で共同開催するシンポジウム）に参加して、研究成果を口頭で発表し、議論する。

派遣期間：2024/11/18～2024/11/20

派遣先：大韓民国（ソウル）

寄付および終身会費納入者一覧

薬友会では48期生以降については終身会費制[※]をとっていますが、それ以前の卒業生には、会費に代わってご寄付をいただくことにしております。下記の一覧は2024年4月1日より2025年3月31日の間に終身会費とご寄付をいただいた方です。^{※※}ご寄付いただいた会員諸兄弟姉にお礼申し上げます。また、終身会費をこれまで支払われていない方は、この機会に是非お納めください。

※ 終身会費は、48期生（2000年の春に学部卒業または大学院入学）以降の会員に、入会時にお支払いいただいております。

※※ご芳名掲載許可者のみ掲載しています。

終身会費納入者

赤 田 天 汰 (76)	京 田 杏 南 (76)	清 水 一 希 (76)	堀 田 暁 友 (76)	荒 木 迅 士 (76)
石 津 京 佳 (76)	久 家 優 奈 (76)	下 元 健 生 (76)	松 岡 奈々恵 (76)	有 川 結 菜 (76)
井 尾 柊 太 (76)	国 本 七 咲 (76)	杉 山 恭 平 (76)	松 村 綺 乃 (76)	萩 原 大 地 (76)
今 野 佑 哉 (76)	久米田 真 歩 (76)	鷹 尾 知 明 (76)	宮 坂 俊 輝 (76)	平 川 慶 汰 (76)
宇佐美 優 奈 (76)	小 林 未 奈 (76)	千々和 賢 司 (76)	村 田 葵 (76)	坂 田 祥 颯 (76)
扇 山 明 直 (76)	齋 藤 萌 花 (76)	堂 田 梨 央 (76)	山 口 大 樹 (76)	玉 置 健太朗 (76)
岡 崎 有 理 (76)	祭 原 心 温 (76)	中 川 拓 海 (76)	山 口 瑤 平 (76)	阪 一 穂 (院70)
奥 田 涼 (76)	篠 田 大 地 (76)	橋 本 翔 (76)	竜 門 優 向 (76)	王 子 巍 (院72)
加 田 光 輝 (76)	柴 田 玲 衣 (76)	札ノ内 丞太郎 (76)	渡 部 敦 士 (76)	

寄付納入者

奥 田 真 弘 (特別会員)	山 田 啓三郎 (12)	門 脇 裕 子 (17)	林 百合子 (23)	野 田 弘 子 (院14)
山 内 脩 (特別会員)	長 村 みどり (14)	北 澤 恵 子 (17)	宇 垣 悦 子 (28)	丸 山 徳 見 (院19)
園 田 香代子 (2)	田 中 美枝子 (14)	陳 蘭 玉 (17)	岡 部 まどか (29)	山 岸 正 文 (院29)
木 津 宗 三 (5)	山 路 昭 (14)	照 井 篤 子 (17)	白 馬 まゆみ (32)	植 田 哲 嗣 (院53)
小 林 敏 子 (7)	久 保 忠 司 (15)	宗 景 真利子 (17)	阪 上 昌 浩 (35)	北 尾 達 哉 (院54)
武 田 嘉 子 (7)	西 山 聡 子 (15)	吉 田 和 子 (17)	金 澤 恵 (38)	大 地 弘 之
西 宗 廣 子 (11)	青 山 清 美 (16)	木 村 直 子 (20)	形 山 和 史 (47)	
井 上 綵 (12)	徳 田 蓉 子 (16)	米 田 眞理子 (20)	齊 藤 茉莉佳 (70)	
鈴 木 幸 子 (12)	真 野 光 彦 (16)	西 川 論 (21)	谷 手 紗也香 (70)	
服 部 久 子 (12)	五十嵐 理 慧 (17)	垣 内 信 子 (22)	白 川 純 一 (72)	

大学基金経由寄付納入者

青 山 浩 (特別会員)	松 村 興 一 (11)	渡 辺 邦 子 (26)	高 山 和 雄 (58)	上 町 昊 (院66)
川 辺 千佳代 (5)	眞 弓 邦 子 (12)	白 馬 まゆみ (32)	山 崎 聖 司 (58)	大 地 弘 之
武 田 嘉 子 (7)	眞 弓 忠 範 (12)	稲 垣 雅 尚 (38)	野 田 弘 子 (院14)	津 田 恵
小 林 廣 美 (9)	岩 田 悦 子 (16)	小比賀 聡 (38)	北 泰 行 (院15)	松 江 正
川 路 晴 子 (10)	陳 蘭 玉 (17)	貝通丸 靖 (45)	南 里 佳 子 (院16)	吉 田 佑一郎
田 畑 節 子 (10)	西 川 論 (21)	形 山 和 史 (47)	丸 川 貴 史 (院53)	
澤 井 弘 行 (11)	藤 岡 稔 子 (24)	MIRON IONUT MIHAI (54)	北 尾 達 哉 (院54)	



2025年度の卒後研修会のご案内

新たな形の卒後研修を検討しています。薬友会のHPでご確認ください。

2025年度薬学部および薬学研究科学生在籍数（2025年5月1日現在）

薬学部

	定員	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
薬学科(6年制)	480	82	86	81	80	101	75	505

薬学研究科

	修士課程（博士前期）				博士課程（博士後期）					
	定員	1年生	2年生	計	定員	1年生	2年生	3年生	4年生	計
創成薬学専攻	30	15	18	33	48	18	26	30		74
医療薬学専攻					49	23	16	14	4	57
計	30	15	18	33	97	41	42	44	4	131

研究生	
学部	大学院
2	4

2024年度 卒業生の進路

	卒業生総数	進学	企業	病院	官公庁	教育	その他
薬科学科	1	1					
薬学科	65	6	52	2	1	1	3
博士前期	24	8	11			1	4
博士後期	12		7	1		1	3
博士	2		2				

2025年度大阪大学薬友会役員（2022年4月1日～2026年3月31日）

会長

春田 純一（院23）

副会長

鶴田 康則（16）
土井 健史（27）
池淵佐知子（27）

理事

北澤 恵子（17）
岡部 勝（19）
米田真理子（20）
河合 裕一（22）
糟谷 史代（25）
宇都口直樹（38）
鈴木 信孝（39）
南 敬（41）
紀平 哲也（41）
形山 和史（47）
浦川 龍太（50）
鍋師 裕美（院55）

役付理事

庶務担当
阪上 昌浩（35）
田村 理（46）
会計担当
浅原 時泰（特）
嶋田 裕介（68）
名簿担当
伊藤 浩介（57）
廣部 祥子（60）
広報担当
吉田 卓也（特）
尾中 勇祐（58）
勢力 薫（61）
研修担当
前田真一郎（48）
村岡 未彩（57）
共催交流事業担当
清水かほり（院58）

幹事長

小比賀 聡（38）

幹事

大阪大学薬学研究科・薬学部
全専任教授
庶務担当幹事
荒井 雅吉（特）
広報担当幹事
橋本 均（特）
会計担当幹事
井上 豪（特）
名簿担当幹事
池田 賢二（40）
研修担当幹事
深田宗一郎（46）
共催交流事業
齋藤 達哉（特）

監事

佐藤 元秀（37）（新任）
藤岡 弘道（23）

名誉会長

萬年 成泰（9）

名誉顧問

眞弓 忠範（12）

名誉理事

抱 忠男（2）
松本 光雄（2）
奥田 順三（9）
西原 力（12）
田中 慶一（13）
山下 治夫（13）

弛まぬ努力、限りなき探求心



八洲薬品株式会社



<http://www.yashimachem.co.jp/>



本社 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目7番18号
彩都バイオヒルズセンター
堺営業所 〒592-8333 大阪府堺市西区浜寺石津町西1丁目4番20号
和歌山営業所 〒640-8303 和歌山県和歌山市鳴神746-3番地
京阪奈営業所 〒574-0057 大阪府大東市新田西町3番10号
神戸営業所 〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5番地2
神戸キメックセンタービル8F


Tel 072-640-1260 Fax 072-640-1271

Tel 072-244-1368 Fax 072-244-4055

Tel 073-473-5951 Fax 073-474-0453

Tel 072-870-2711 Fax 072-870-2710

Tel 078-306-1739 Fax 078-306-1751



病気だけでなく、
創薬の常識にも立ち向かう。
未知のイノベーションで、
病気より先に未来へ行く。
できそうもない薬でなければ
私たちが生み出す意味はない。

創造で、想像を超える。



CHUGAI

中外製薬

Roche ロシュグループ

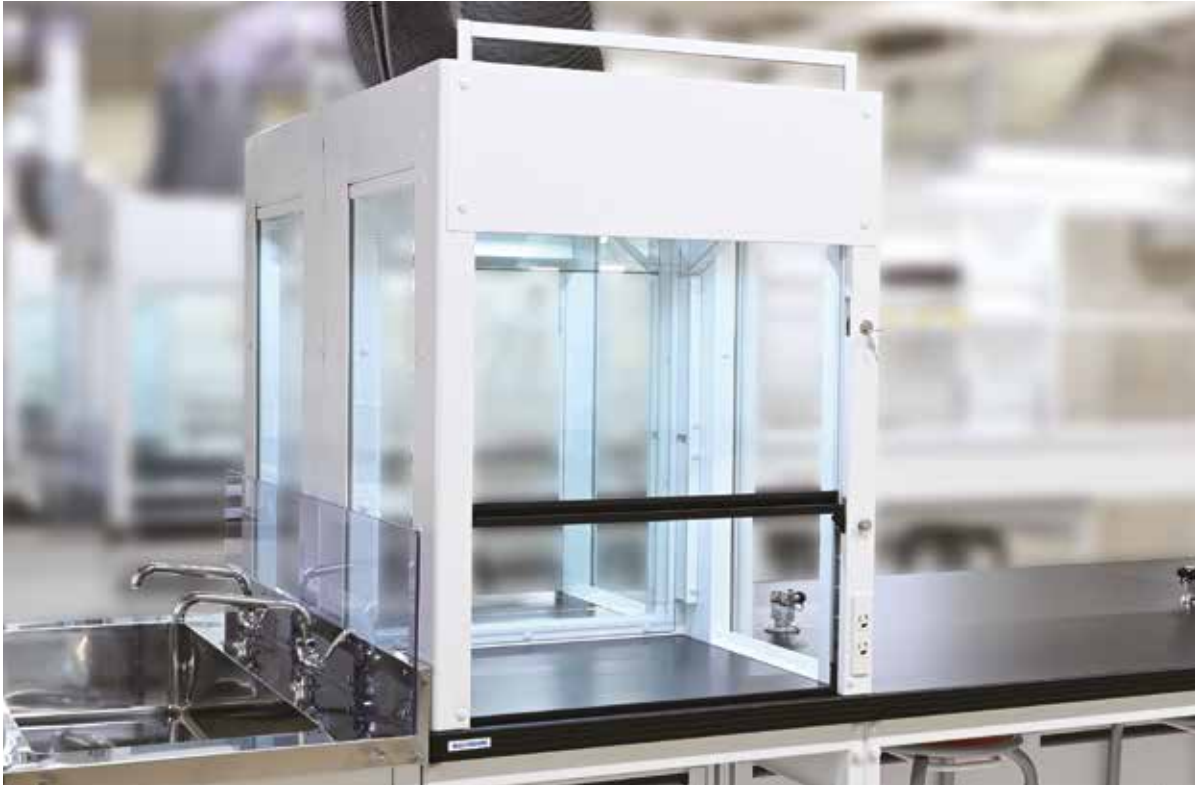
中外製薬では、創薬研究や製薬技術研究など、
研究職のキャリア採用を募集しています。
募集職種の詳細はQRコードよりご確認ください。



低風量型コンパクト実験台フード

パーソナルフード

わずかなスペースを活かして実験を安全に！
コンパクトな低風量型実験台フード



特 長

1

サポートエアの効果で低風量を実現！

上部から庫内に向けてゆるやかに流れるサポートエアが庫内を整流して有害ガスの漏洩を防ぎ、風量を抑えた排気を実現します。

2

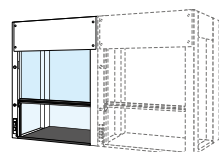
小さなスペースでも実験室の安全性向上！

小さなスペースに設置できて安全に実験できるため、実験室全体の安全性をさらに高めることができます。

3

排気風量を抑えて増設も簡単！

排気風量が少ないため既存の排風機のままで実験台フードを増設し、設備コストを抑えることができます。



※写真の背面パネル・バツフル板強化ガラス仕様はオプション対応です。

SANSHIN



知と出会いが融合し、新たなイノベーションが湧き出る未来志向型空間

旧薬学部4号館4階

未来を変える、
ラボ空間を創造する。



実験台

Lab Scape System
LSS Omnis

New! ヤマト科学がご提供する新製品ラインアップ

高濃度なUFB水を生成



UFB(ウルトラファインバブル)連続濃縮装置
RE202-UFB

長時間運転で霜付き無し



低温恒温器(低温インキュベーター)
INS600/800

最速1秒以下で測定



コロニーカウンター
CC301/501



科学・技術の未来のために

ヤマト科学株式会社 www.yamato-net.co.jp

〒104-6136 東京都中央区晴海1-8-11晴海トリトンスクエアY棟36階



お客様総合サービスセンター

0120-405-525

受付時間 9:00~12:00、13:00~17:00 土日祝除く

リポソーム・LNP

受託製造サービス

リポソームとは

1つ以上の脂質二重膜に包まれた粒子のこと
薬物の患部への送達などを目指して用いられます
・代表例 ドキシル

両親媒性脂質を用いることで容易に作製が可能

- ・リン脂質
- ・PEG脂質
- ・修飾基を付加したリン脂質
- ・蛍光修飾したリン脂質



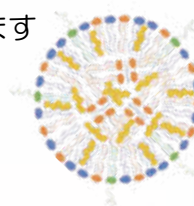
100 - 200 nm 程度

LNPとは

脂質ナノ粒子（Lipid nano particle）のこと
内包した核酸を細胞内に導入し作用させるために用いられています
・代表例 COVID-19ワクチン

主な構成脂質として4種の脂質を用います

- | | |
|----------|---------------|
| ・カチオン脂質 | 細胞内での核酸の放出に必要 |
| ・PEG脂質 | 血中滞留性の向上 |
| ・コレステロール | 粒子の安定性に寄与 |
| ・リン脂質 | 細胞膜との融合に必要 |



100 nm 程度

検討可能内容

- ✓ 各種薬剤を内包したリポソームの作製
- ✓ ご希望の核酸を内包したLNPの作製
- ✓ 多様な脂質組成での製造
- ✓ 様々なスケールで製造検討
- ✓ 製造・分析・保管形態の検討
- ✓ 大量製造に向けての条件検討



<https://www.katayamakagaku.co.jp/>



箕面事業所（L事業推進室）

〒562-0014 大阪府箕面市稲4-1-7

Tel. 072-749-3009 / Fax. 072-749-3041

webinfo4@katayamakagaku.co.jp



ラボスケール自動ペプチド合成装置

CSBio II

CSBio II は50mg～500mgスケールのペプチド合成を行うための機能を備えた、自動ペプチド合成装置です。

経験の少ない方でも簡単に使用できるよう設計されており、ご自身のラボでペプチドを容易に合成することができます。



仕 様	CSBio II
反応ベッセル容量	15ml(ディスポタイプ)
アミノ酸リザーバー	5ml × 30
溶媒ボトル	4L × 1、1L × 1、0.25L × 1
廃液タンク	10L × 1
カップリング	30-mer 自動カップリング
本体寸法(ノートPC抜)	W79 × D49 × H59(ボトル込H76)cm
本体重量	約68kg

この1本で、これら全ての 目の症状を治す!

基準内最多
有効成分
12種類配合

*基準とは厚生労働省が承認事務の効率化を図るために定めた医薬品の範囲

眼疲労

目のかすみ^{※1}

※1:目やにの多いときなど

ひりつき^{※2}

※2:ハードコンタクトレンズを装着しているときの目の不快感

目の炎症^{※3}

※3:紫外線その他の光線による目の眼炎(雪目など)



販売名: Vロートプレミアム

第2類医薬品 目の疲れ、充血、目のかすみ^{※1}に

目薬は **ロート**

愛おしいを科学する。

MA-T™

Matching Transformation System

MA-T™を全ての人に届けるために



ACENET inc

<https://acenet-inc.jp>



変わらない価値 でミライを創る

クリーン・テクノロジーは、今までにない技術を半導体業界に提供する会社としてお客様と共に成長して参りました。昨年には大阪府泉南市に新本社が完成し、創立35周年を迎えることができました。現在、PM2.5をはじめとする微小粒子の除去や医療業界におけるウイルス除去を目指す「空間洗浄」への活動の幅を広げております。お客様には常に「驚きと感動」を提供できるよう、画期的な商品を創り出す会社として、また、世界初の技術を追いつくため、お客様に更なる貢献ができるよう、鋭意邁進していきたいと考えております。



2025年4月13日から10月13日までの184日間
大阪・関西万博2025 大阪ヘルスケアパビリオン2F
日本MA-T工業会ブースに出展しています



クリーン・テクノロジー株式会社

本 社 : 〒590-0535 大阪府泉南市りんくう南浜3-2
T E L : 072-450-0126(代表)
泉佐野工場 : 〒598-0021 大阪府泉佐野市日根野3209番地1(旧本社)
営 業 所 : 神奈川/宮城/熊本/長崎 (海外拠点 : 台湾/中国/アメリカ)



NMR 分析に光をもたらす… 最新型 NMR 分光計 ECZ Luminous



ECZ Luminous R 400 MHz~600 MHz

- 600 MHzまでの高磁場に対応し、
溶液NMRだけでなく、
固体NMRまでを可能とした超小型分光計



ECZ Luminous S 400 MHz

- 溶液NMR専用のエントリーモデル



ECZ Luminous G 400 MHz~1300 MHz

- 全ての拡張性に対応したハイエンドモデル
Foot printはECZの半分に！



本社・昭島製作所

〒196-8558 東京都昭島市武蔵野3-1-2 TEL:(042)543-1111(大代表) FAX:(042)546-3353
www.jeol.co.jp ISO 9001・ISO 14001 認証取得

廃棄処分したい 試薬・薬品・ボンベ 等はありませんか？



不要となった試薬や薬品。
その保管や廃棄は、大きなリスクやコストを伴います。守るべき安全性や環境保全の観点からも、不要試薬には早期・適正な処理が求められます。

試薬・薬品・ボンベを長期保管すると・・・

- ラベルがはがれると不明試薬となり、危険性が増大します。
- 毒物・劇物については在庫管理が必要です。
- 容器の破壊や漏れによって災害の原因となる危険性があります。
- 保管スペースが必要となり、場所の有効活用を妨げます。



わたしたち、
**大阪薬研に全て
おまかせください！**

まずはお気軽にお問い合わせを
【関西】TEL 072-726-1162
【関東】TEL 047-302-3271
【WEB】<http://www.yakken.co.jp>

ほかにも・・・

- 盗難や紛失、容器の破壊など、事件・事故の原因となる危険性があります。
- 気化や液化による大気汚染の危険性があります。(有機水銀、有毒物質等)
- 水や空気との接触によって爆発する危険性があります。(金属ナトリウム等)
- 成分や品質が劣化するため、試薬として利用出来なくなります。
- 消防署の立ち入りおよびその他の法的な管理を遵守する必要があります。



試薬と環境の未来を共に
YAKKEN 大阪薬研株式会社
<http://www.yakken.co.jp>

【本社】〒562-0015 大阪府箕面市稲5丁目13番10号
TEL: 072-726-1162 FAX: 072-726-1170
【東京営業所】〒273-0034 千葉県船橋市二子町565
TEL: 047-302-3271 FAX: 047-302-3270

事業内容

- 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬業
- 試薬・医薬・理化学機器の販売
- 研究設備の製造販売
- 不要ボンベの回収

TOKUYAMA



もっと未来の
人のために

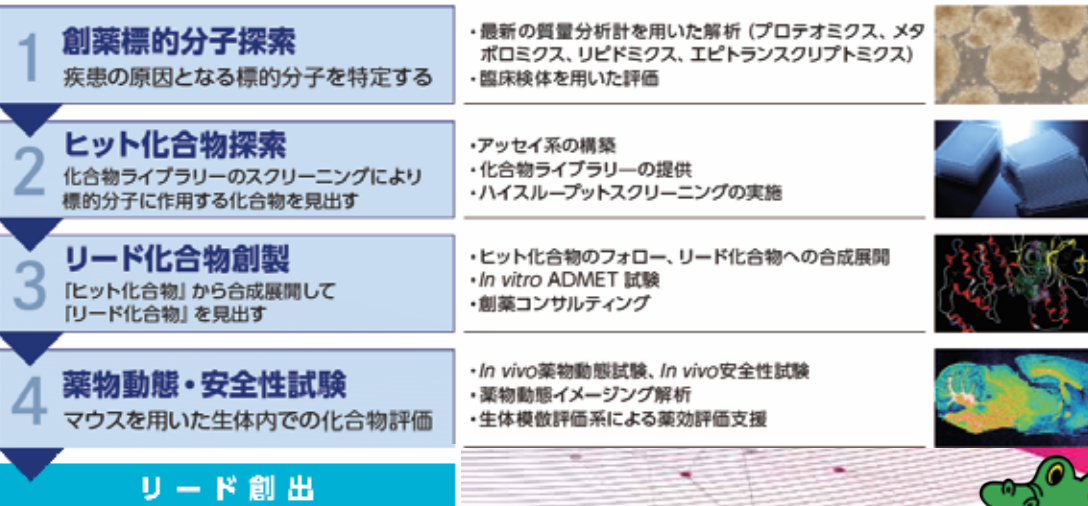
トクヤマは新たな価値を創り出してゆきます

トクヤマは創業以来、ひたすら研究開発によって新しい素材の価値を模索してきました。その立場から、いま、地球環境のために何をなすべきか、深く熱く向き合いつづけています。トクヤマのSDGs。 www.tokuyama.co.jp

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

創薬サイエンス研究支援拠点では、AMED「生命科学・創薬研究支援基盤事業（BINDS II）」の採択を受け、公的研究支援を行っています。

創薬研究の相談からリード創出までシームレスにサポート！



■研究支援のご依頼、ご相談はこちらから

研究支援のご相談は随時受付しています。
研究進捗に合わせた支援内容の提案、アドバイスも行っています。
『支援依頼フォーム』よりお気軽にお問い合わせください。



大阪大学薬学研究科 創薬サイエンス研究支援拠点
【E-mail】 lsc@phs.osaka-u.ac.jp
【HP】 https://www.phs.osaka-u.ac.jp/souyaku_kyoten/



大阪大学公式マスコット「ワニ博士」薬学部の魂

キシダ化学は「試薬」を通じて、
お客様の夢の実現を支えてきました。
キシダ化学は、世界に目を向け、
活動の場を海外へ広げることで
これからも広く社会に貢献していきます。



～キシダは皆さまと世界の夢を化学する～

試験研究用試薬

二次電池材料

創薬支援サービス



KISHIDA
キシダ化学株式会社

〒540-0029 大阪府中央区本町橋3-1

✉ shiyaku@kishida.co.jp

🌐 <https://www.kishida.co.jp/>





京都薬品工業株式会社

Kyoto Pharmaceutical Industries, Ltd.



優良医薬品の創製を通じて社会に報恩

画期的な新薬の研究、独創的な製剤の開発、
最高品質の医薬品の製造により、人々の命と健康を守ります。



WEBサイト <http://www.kyoto-pharm.co.jp>



We will provide thorough support to researchers aiming to achieve new advancements in biotechnologies.

創造と未来へ。

研究の基礎から応用まで

AZ お客様の喜びを一番に考える アズバイオの研究開発支援サービス

バイオテクノロジーが世界中で目覚ましい進歩を遂げる中、アズバイオは、研究における技術開発とその未来を担うお客様に向けた研究支援サービスを行っています。取り扱いメーカー様は3000社以上にのぼり、一般試薬の販売から最新機器の販売やリースの仲介までを幅広くカバーし、バイオテクノロジー研究の最前線を支え続けています。今後お客様の喜びを一番に考えるとともに、最新の研究分野における継続的な情報提供に努めてまいります。

< 取扱分野 >

- | | |
|----------------|---------------|
| ▶細胞培養関連機器及び試薬 | ▶光学機器 |
| ▶一般試薬 | ▶病理・形態関連機器 |
| ▶分子生物学関連機器及び試薬 | ▶実験機器 |
| ▶分析機器 | ▶糖鎖・蛋白・核酸関連機器 |
| ▶画像関連機器 | ▶設備機器 |
| | ▶各種受託サービス |

ニーズをサポートする
3つのテーマ 1

幅広い
取り扱い製品

ニーズをサポートする
3つのテーマ 2

最先端の
情報提供

ニーズをサポートする
3つのテーマ 3

迅速な
対応



バイオサイエンスのベーシックから最先端まで。
株式会社アズバイオ

大阪
本社

住所: 〒530-0043 大阪市北区天満3-5-8
TEL: 06-6351-5351 FAX: 06-6351-5352 E-mail: osaka@azbio.co.jp

東京
営業所

住所: 〒113-0031 東京都文京区根津1丁目1-19根津宮本ビル5F
TEL: 03-5685-4500 FAX: 03-5685-4501 E-mail: tokyo@azbio.co.jp



私たちは日々、たくさんの人のなかで生きている。
 多くの人とつながっていても、
 不安や悩みは独りで抱えてしまいがちだ。
 本当に大切な気持ちは、
 日々のくらしやこころの奥に隠れてしまっている。
 人を想う力は無限だ。
 私たちは、「あなた」という
 かけがえのない「いのち」のために
 日常を真摯に見つめ、こころの声に耳を傾け、
 寄り添い続ける。
 想う力はきっと、あなたさえ気づいていなかった
 喜びにつながっていく。

あなたといういのちに、
 もっと笑顔を。

maruho
 皮膚科学領域での卓越した貢献を

マルホ株式会社
<https://www.maruho.co.jp/>



LogicBio

いのちをつなぐ

SARAYA

1952年、戦後間もない日本に蔓延した感染症から、
誰もが等しく逃れる手段として、日本初となる薬用石けん液を開発し、
手洗い習慣を広げることから事業をスタートしたサラヤ。

現在では、日本だけでなく、
世界の【衛生・環境・健康】の向上を目指して様々な製品やサービスの提供を行う一方、
ボルネオ島での生物多様性保全やアフリカでの衛生環境向上、
そして海洋保全と資源活用といった様々な社会課題の解決にも取り組んでいます。

次の世代に美しい地球と健康で笑顔溢れる暮らしをつないでいきたい。

いのちをつなぐSARAYA

サラヤ株式会社 ☎ 0120・40・3636



PAVILION PARTNER

SARAYA

SARAYAは、
2025年大阪・関西万博
BLUE OCEAN DOMEの
パビリオンパートナーです。
©Expo 2025

サラヤのSDGsソリューションサイトはこちら
SDGs SOLUTIONS



ナノ粒子サイズ・分子間相互作用解析システム

低分子-タンパク質の相互作用解析

FIDA NEO



● 固定化不要

溶液中でのサイズ変化に基づく親和性、カイネティクス解析

● LAMBDA DYNAMICS

波長シフト測定による感度向上

● BINDING RELATED INTENSITY CHANGE

蛍光強度の変化測定による感度向上

低分子化合物
LLPS・アミロイド凝集
標的タンパク質分解 (TPD)
リポソーム・LNP
膜タンパク質

5% サイズ変化の検出
1 nm ~ 1 μ m 粒子サイズ
pM ~ mM 親和性 (K_D)
sec ~ hrs カイネティクス
(k_{on} & k_{off})

解らないことはキコーに聞こう。

KIKO・TECH

<https://www.kiko-tech.co.jp/>



〒562-0036 大阪府箕面市船場西三丁目 10 番 3 号
TEL 072-730-6790 (代)

BE ANYTHING, BE EVERYTHING.

株式会社マンダム

自分らしく生きること。
ありたい自分であること。
そんな社会を持続的につくりあげていくために、
私たちマンダムはサポートしていきます。
そして、あらゆる人のウェルネスの実現にむけて
お役立ちしていきたいと思えます。
なりたい自分に、全部なろう。



mandom



バイオ研究関連機器全般

株式会社

ア-ガス・サイエンス

〒563-0024 大阪府池田市鉢塚2-5-26
TEL. (072) 762-8151 FAX. (072) 762-5007
E-mail: argus@bz03.plala.or.jp

営業品目

分子生物学用機器
細胞工学用機器
遺伝子工学用機器
血液学用機器
.....
試薬全般
生化学用機器
分析用機器
ディスプレイ各種製品

nacalai tesque

The quality for certainty.



世界を変える、一滴の力。

リサーチケミカル、ファインケミカルの製造、輸入、販売
ISO 9001, ISO 14001 / 京都工場

ナカライテスク株式会社

〒604-0855
京都市中京区二条通烏丸西入東玉屋町 498



Pharmaceutical Research Professional コース

PRPコース 医薬品開発のためのモジュール単位のコース

医薬品開発のグローバル人材育成を目指した2年間の**新PharmaTrain教育コース**（14モジュール）が2025年6月にスタートします。本PRPコースはその中の**希望のモジュールのみ履修**するプログラムです。

**全ての講義はオンライン（Zoom）で行います
ので日本中どこからでも受講可能です。**

2025年度（6モジュール）

1. 医薬品の臨床評価の過程：入門
2. 医薬品の開発計画
3. 医薬品開発における臨床薬理学の基礎
4. 臨床試験デザインの基礎
5. 医薬品の規制と審査
6. 医薬品ライフサイクルマネジメント

皆様の受講申し込みをお待ちしております。

（各モジュールの申し込み期限は、各モジュール開始日の2週間前までです）

詳細は、<https://www.phs.osaka-u.ac.jp/prp/index.html> をご覧ください。

受講料 7万円/モジュール（4日間）
（アカデミア価格あり：要問合わせ）

産官学からの多彩な講師陣の講義による国際標準化されたカリキュラムにて、医薬品開発：創薬、臨床開発から市販後まで網羅した包括的な教育内容をモジュール単位で提供

社会人にも対応した土曜日に開催されるコース日程、オンライン開講なのでWiFi環境さえあれば受講可能

1モジュールは4日間の講義（90分授業16回）、2日間の講義（8回）で構成
<https://www.phs.osaka-u.ac.jp/prp/index.html>
大阪大学薬学研究科PRPコースとして、大阪大学薬学研究科からの修了証も発行されます（発行手数料は無料で、要件を満たした方に郵送いたします）

コースに関するお問い合わせ

〒565-0871 吹田市山田丘1-6

大阪大学薬学研究科

PRPコース事務局

Mail : prp-office@phs.osaka-u.ac.jp



各モジュールの講義概要（2025年度）

	科 目	日 程	内 容
Module1	医薬品の臨床評価の過程：入門	6/7,14,21,28	臨床試験の方法論を中心として、医薬品の臨床評価がどのような段階を経て、どのように行われるかを理解する。医薬品の臨床評価の過程は一般に、第1相から第IV相の四つの相に分けられ、医薬品の「有効性の確認」と「安全性の評価」を最終的な目的として「臨床試験の連鎖」で成り立っている。臨床試験の目的は、あらゆる科学の実験の目的と同様に、妥当で一般化のできる、また効率よく得られた情報を提供することである。本講義で、臨床試験の方法とそれに纏わる諸種の問題を中心として、医薬品の臨床評価過程を体系的に概説する。
Module2	医薬品の開発計画	7/5,12,8/2,23	医薬品がどのような過程を経て開発されるかの全体像を、創薬、製剤化研究、薬理実験、毒性実験、および臨床開発、市販後の安全性監視の観点から理解することを目的とする。創薬の方法論、品質評価と規格の設定および非臨床試験の概要、ならびに、医薬品の臨床開発の戦略的な進め方に必要な、試験デザイン、用量反応情報の収集と評価、多地域試験、国際共同試験、グローバル開発の方法を紹介する。
Module3	医薬品開発における臨床薬理学の基礎	8/30,9/6,27,10/4	医薬品の臨床開発における臨床薬理学の概念・役割・意義を理解することを目的とする。医薬品の臨床開発における、薬理作用、薬物動態、医薬品の適正使用、ゲノム解析などについて概説する。
Module4	臨床試験デザインの基礎	10/18,25,11/8,15	臨床研究あるいは臨床試験を倫理的かつ科学的妥当性を確保しつつ実施するために必要な比較研究の方法を、医薬品の臨床試験の計画、実施、解析および報告における、統計的原則を中心にすえて解説する。講義では医薬品の臨床試験の方法を中心に述べる。
Module5	医薬品の規制と審査	11/29,12/6,13,20	臨床研究および医薬品の新薬承認審査の過程および関連する法律・ガイドラインを体系的に理解することを目的とする。臨床研究および医薬品開発に関連する法律・ガイドラインを概説した上で、医薬品審査の過程や市販後評価などで留意すべき論点・問題点を個別に紹介する。
Module6	医薬品ライフサイクルマネジメント	2026/1/17,1/24,31,2/7	現在の医薬品の開発には、医療市場を分析した戦略的な開発計画が不可欠である。特に医薬品の上市後（市販後）にはいかにその製品の価値を高めていく（育薬）ことは、医療経済の面からも今後さらに重要視されると考えられる。本講義では、医療市場の分析および医薬品のライフサイクルマネジメント（LCM）など育薬の概念とその計画・実践の構成要素についての理解を目的とする。